



2008～2009年度 国際ロータリー第2760地区
クラブ奉仕委員長会議

ワークショップ会議

「楽しく、ロータリーを語ろう！」

- 1、 クラブ奉仕委員長を拝命して。
- 2、 活性化とCLP
- 3、 会員育成

クラブ奉仕委員会



2008～2009
2007～2008年度国際ロータリー第2760地区

クラブ奉仕委員長会議

2008年9月11日(木) 名鉄グランドホテル

12:00～12:50 登録・食事

13:00～16:15(予定) 会議

目次

司会 地区クラブ奉仕委員 松本 順子

- | | | |
|--------|--------------------------------|-------|
| 13:00～ | 1) 点 鐘 R. I. 2760地区 地区クラブ奉仕委員長 | 藤原 研一 |
| | 2) 来賓紹介 | |
| 13:05～ | 3) 挨拶 R. I. 2760地区 ガバナー | 片山 主水 |
| 13:25～ | 4) 挨拶 R. I. 2760地区 パストガバナー | 福田 清成 |
| 13:40～ | 5) 挨拶 R. I. 2760地区 地区幹事 | 宮崎 薫 |
| 13:45～ | 6) クラブ奉仕委員会の本年度方針 | 藤原 研一 |
| 14:00～ | 7) 本年度活動指針とアンケートから見るクラブ現況 | 多田 通夫 |

Coffee Break

(5分程度の休憩をはさみます)

司会 地区クラブ奉仕委員 松井 勇

- | | | |
|--------|-------------------------------|-------|
| 14:25～ | 8) ワークショップのための問題提起 | 天野 正明 |
| | 1. クラブ奉仕委員長を拜命して | |
| | 2. 活性化とCLP | |
| | 3. 会 員 育 成 | |
| 15:25～ | 9) 各テーブル報告 | |
| 16:20～ | 10) まとめ R. I. 2760地区 担当ガバナー補佐 | 安藤 公爾 |
| | 11) 点 鐘 | 藤原 研一 |

(敬称略)

地区クラブ奉仕委員会指針

(Consensus Issue)

- ① 委員長の統括すべき委員会の確認・把握
- ② クラブ運営の効率化
- ③ 魅力ある例会
- ④ 魅力あるロータリアン

地区方針 持続可能な前進 !!

組織運営で・奉仕活動で・会員増強で

- ① ロータリー綱領の再確認。
- ② 地区・分区・クラブの管理運営機構の整備。
- ③ 「調和の奉仕」
- ④ 人的・物的資源の維持強化

1. クラブ奉仕の統括すべき委員会の確認・把握

クラブ奉仕委員会は委員会と理事会のパイプ役

- ・出席委員会
- ・会員増強委員会
- ・会員選考委員会
- ・職業分類委員会
- ・広報委員会
- ・クラブ会報
- ・雑誌委員会
- ・ロータリー情報委員会
- ・IT委員会
- ・会場運営委員会
- ・プログラム委員会
- ・ニコボックス委員会
- ・親睦活動委員会
- ・ロータリー研修委員会
- ・ロータリー家族委員会
- ・その他

2. クラブ運営の効率化

ロータリーは時代とともに変革しなければならない。

しかし変えてはいけないものもある

(R. I.) 会費に十分見合う価値を提供すること

(R. I.) 意欲を喚起するような有益で実り多い種々のプロジェクトの実施
効果的な運営、活動の為には経済的效果も考えると会員増強は重要

- 地区** クラブの魅力を高め、会員純増2名を実現しよう。
魅力あふれる人格のつどい・研鑽（例会は道場）
最新情報の提供
真の親睦
クラブ事業（奉仕・親睦）への率先参加

3. 魅力ある例会

例会出席によって得られるメリットは、事業上の貴重な時間を割くデメリットより大きくなければならない

例会のプロデューサーはクラブ奉仕委員長、すなわち貴方です。

例会はロータリーと考えていいほど、ロータリーの基本の活動です。

クラブ奉仕委員長は、担当する責任者であるという自覚が必要になります。

(R. I.) 100%出席率をめざし、途中退席をやめよう

地区 あらゆるレベルの会合に出席して自己研鑽を！
人間形成の場
会員の事業上の発想の交換の場

4. 魅力あるロータリアン

魅力あふれるロータリアンが魅力あふれるクラブを作る。

魅力あふれるロータリアンになる為に、ロータリー精神を涵養しなければならない。

魅力あふれる会員の育成と相互研鑽を図る為の手段として、親睦の実践がある。

それらが達成されてこそ、

魅力あふれるロータリーとして世間から認知され尊敬されてくる。

地区 豊かな教養とたしなみ・ロータリー精神
学問、芸術、スポーツ、マナー等に関する諸見識
諸文化に対する理解
社会に意義ある職業
円満な思想
厳しい規律・倫理観念
慈悲のこころ・寛容の精神
実行力

「アンケートにみる！ クラブの状況」 作成するにあたりまして

この度の調査表作成のご協力に感謝申し上げます。

年度スタート時、大変お忙しい中での作業であったと推察いたします。

皆さまからお送りいただきました調査表を、できるだけ忠実に記すようにいたしました。紙面の都合上ご記入いただきました内容を文意に沿って簡略させていただいた箇所もございます。

また、FAX通信による原稿送信により、文字のつぶれ等により判読に苦慮した箇所もありました。

誤字、脱字、脱文の非礼と併せましてご容赦の程お願い申し上げます。

この資料が、皆様方のクラブ運営のためのツールとして少しでも寄与できる事を願っています。

2760地区クラブ奉仕委員会

アンケートの問いかけ

- ①「ロータリーを考える月間」をどのような内容で実施されましたか。(方法論)
- ②クラブ活性化の方策について。(方法論)
- ③人的資源の強化に関連した会員育成プログラムについて。(方法論)
- ④組織運営(組織運営の効率化)での持続可能な前進のための取り組みについて。
(CLPについての経緯もお記し願います)(方法論)

回答率

77クラブ/81クラブ中 (95%)

↓
78

(96%)

① 「ロータリーを考える月間」をどのような内容で実施されましたか (1)

1. 7月11日の例会にて、クラブ23代会長に「ロータリーの綱領」「四つのテスト」「職業宣言」など、ロータリーの基礎・本質についてお話をいただきました。また、7月の会長挨拶では、毎回「ロータリーを考える月間」をアピールする方針です。
2. ロータリー情報委員長の卓話の実施。「持続可能な前進」というテーマのもと、何より会員増強を主眼にその方法論の案内と、会員減少をいかに防ぐかについての話し合いがなされました。今後は会員増強委員長との連携により、テーマの推進に努力するという内容でした。
3. ロータリーの綱領の解釈と題して会長スピーチ取り組み
ロータリー綱領
まず、奉仕の理想を鼓吹しとあるが、奉仕の理想とは何を意味しているのか。
職業によって己が生かされているこの社会に対し感謝するとき、その支え方(奉仕)の基本として個人生活・社会生活・職業生活に於いて利己的欲求を最小限にとどめ、常に最大に利他の究極を求めつつけていこうとする心、つまり己の欲求を抑え、利他の究極はその超我の奉仕の心をもってする真の奉仕が結果的に己の事業にとって非常に有益であるという考え方、これを鼓吹し育成することがロータリーの綱領の解釈である。
4. 「ロータリーを考える月間」という特別な意識を持たず、例会はロータリーらしく「ロータリアンの活動は、職業倫理に照らして！」をモットーに魅力あるものにしていきたいと思えます。
5. 例年の如く、7月は新年度会長スタートの月ですので、月末に夜間例会としてI.D.Mを行い、会員相互のコミュニケーションを図るため、円卓にて(小グループの)ロータリーについて話し合いの場をもてるような配席にした。
6. 当クラブでは「ロータリーを考える月間」の担当委員会は、ロータリー研修委員会であり、同委員会が主催している。今年度は、7月16日の例会を「ロータリーを考える月間」のための例会とし、宮崎薫幹事他2名にロータリー観を語ってもらうこととした。
7. 7月は、新年度スタートの月でもあり、従来からの慣習で、会長・幹事所見、四大奉仕委員長所見、親睦・広報・会員組織・ロータリー財団・25周年記念各委員会委員長所見等で、プログラムはほぼ終了します。「ロータリーを考える」というテーマは、会員増強、奉仕活動への積極的な関与、退会防止等、多くの直面する課題に直結するだけに、年間を通して、できるだけ機会を創造していきたいと考えています。
また、月一回のspeak out day(立食形式で会員相互が自由に語り合う例会)で、7月も行われましたが、ロータリー月間である事を告知し、出来るだけロータリーをテーマに話し合ってもらうようにしました。
8. クラブで一番重要な委員会であることを年頭に置き、会長方針に従い、クラブ活性化に努めるため、委員長一名、副一名、委員二名の少人数ですが、奉仕活動を具体的に進めるため、プログラム作りの委員会を行った。
9. 年度初めスケジュールが詰まりまだ実施していません。
今後クラブフォーラム方式で取り入れることを考えています。
10. 7月は新年度体制のスタート月で、「ロータリーを考える例会」を設ける事は難しい。
そこで、会長挨拶の中でロータリーそのもの(本質論)を語っていただき、会員意識の向上を図りました。
又、月に1度の「ロータリー情報タイム」においても会員意識の向上を図ってまいります。
11. 7月はスケジュール多忙のため、「ロータリーを考える」というよりは、クラブ内の充実を中心に活動。
今後、プログラム委員会やロータリー情報委員会と連携し検討する予定。

-
- 12 ・ 7月9日(水) 12:30~13:30 (通常例会より時間を30分多くとった。12:00~12:30 昼食タイム設定)
方法: 第1回クラブフォーラム「魅力ある例会とするには」、出席者全員各テーブルに分かれて話し合いを行った。(リーダー: クラブ奉仕委員長)、その後テーブルごとに討論内容について成果を発表。
-
- 13 ・ 例会日に会長から挨拶で主旨を説明
特にロータリー活動が歴史的にいかに変化してきたかが、わかるように話を頂いた。
-
- 14 ・ 7月15日の例会を夜間例会として、食事をしながら、ロータリーについて意見の交換をする例会を開催しました。
-
- 15 ・ 今年度の岡崎南ロータリークラブの7月スケジュールは、以前より決定していたインターアクトクラブ協議会開催とそれに関する準備、各委員長の活動方針の発表などで全ての例会をそれに割いてしまいましたので、残念ながら実施できませんでした。
-
- 16 ・ 1. クラブフォーラム(1日) 会長方針「ロータリーに感動と微笑み」
2. 委員会事業計画発表(3日)
クラブ奉仕・親睦・プログラム・出席会場・広報雑誌・ニコボックス・職業奉仕・活動表彰・R情報・職業分類会員選考・IT・会員増強・社会奉仕・環境保全・RCC・国際奉仕・米山奨学会・R財団・WCS・新世代・RAC・RYLAの各委員会委員長が年次計画発表を行った。
3. 納涼例会(立食例会)(1日) 会員の友人や知人を無料で招待し親睦をはかる。将来の会員増強を目的とした立食例会を行った。年に6回程度を予定している。7月の招待者はゼロであった。
-
- 17 ・ 4月に行った次年度のためのクラブ協議会において、当クラブ奉仕委員会には11の小委員会があり互いに連絡を取り合い効率のよいクラブ運営をお願いしました。
-
- 18 ・ RI会長の目標である“夢をかたちに”をテーマに、私達ロータリアン個人の夢は当然の如く、ロータリーとして今世界的に問題になっている環境・貧困等について職業を通じて何かできないのか、物・心両面で考えていきたいと思えます。
-
- 19 ・ 「ロータリーを考える月間」に対して、当クラブでは会長、クラブ奉仕委員長が中心になり、例会の中で特別講和を会長が会員に語りかけました。
内容: ロータリーソングの1つである「四つのテスト」の有益性を認識し、企業倫理を再構築し、企業活動に活用すべきです。
この「四つのテスト」は1930年頃の大恐慌の中、会社を救う為、ロータリアンのハーバート・テイラーが作成し、テイラーは「四つのテスト」を実践して会社を救い、従業員を守ったのだと話しました。
-
- 20 ・ 7月23日(水)の例会にて、『ロータリーを考える』というテーマで、クラブ協議会を開催実施。江崎パストガバナーの基調卓話を頂きました。時間が不足をしてしまい、メンバー間の意見交換は、実施できませんでした。
-
- 21 ・ 1)クラブ計画書において「ロータリーを考える月間」として明確に記載した。
2)例会において会長挨拶にて紹介した。
-
- 22 ・ ロータリーの綱領の再確認
「四つのテスト」の唱和を毎月第一例会にてロータリーソング斉唱の後実施
-
- 23 ・ クラブ奉仕関連委員会とS. A. A. 会場運営委員会と合同で例会のあり方を検討する。

① 「ロータリーを考える月間」をどのような内容で実施されましたか (2)

- 24 ・ 7月2日(水)例会：会長、副会長、地区会計監事より「ロータリーを考える」をテーマに卓話を実施。
7月9日(水)例会：地区総務委員長、財団委員長、会員増強委員長より「ロータリーを考える」をテーマに2回目の卓話を実施。
-
- 25 ・ 会長方針及びあいさつの中で、「ロータリー」について情報提供を行ったり、各々が考えるよう促した。
各委員会の事業計画の中に盛り込んだ。
-
- 26 ・ 毎度第一例会において、会長より「自分はロータリーに何を求めているか」「ロータリーは今何をすべきか」「自分は今、何をすべきか」、会員一人ひとり沈黙考し、ロータリアンの現状を見つめ、過去を反し、10年先を羨望するように話をしてもらいました。
-
- 27 ・ 7月16日(水)：「ロータリーを考える」を中心テーマに全会員を対象にグループ討論会としての例会を実施。
「入会の動機」や「奉仕活動への取り組み」など会員の意識の再確認の機会とした。
7月23日(水)：例会にて、新たに発足された「豊田市キャリア教育支援協議会」(中学生の職場体験学習)について、豊田市教育センター指導主事をお招きして、その活動の目的等を講演いただいた。そして、ロータリーの職業奉仕として地域に役立つ活動の実践について検討をした。
-
- 28 ・ 1. 会員意識の高揚を図るため年初の事業計画発表を例会3回に亘り実施し、クラブの活動の方向性を細に説明し、理解を求めた
2. 7月例会プログラムにロータリーの理念とロータリアンとしての心構えの解説を採り入れた。
-
- 29 ・ フォーラム「クラブ奉仕」(夜間例会)を開催し、「ロータリーの魅力とCLP」をテーマに、クラブ活性化の方策を全員で討論した。
フォーラムの内容は以下の通り。
第一部：「ロータリーの綱領」の原文(英文)と日本語訳を併記した資料を配布。佐藤千壽氏(東京東RC)のわかりやすい意訳も紹介した。(10分)
第二部：地区出向委員より「CLPの意義とねらい」について説明(20分)
第三部：テーマ「クラブ活性化への方策を考える」で自由討議と意見発表。
参考資料として、フォーラムに先立って実施した会員へのアンケートの集計結果(34通、回収率60%)を公表した。(40分)
-
- 30 ・ ①「四つのテスト」を例会の冒頭で唱和することによって、ロータリーの綱領を日常的に確認し、加えて「ロータリアンとしてのコンプライアンス」を今一度再認識するように努めている。
②例会のテーブル席を委員会ごとにし、当該委員会の事業の確認と問題点等について話し合い所属意識の高揚に努めた。
③7月の最終例会のテーブル席を会員の年代を考え構成し、クラブが「持続可能な前進」をはかるために今、何が必要か、何が問題点なのかを話し合い後日全員に内容を還流した。
-
- 31 ・ 1、7月8日の第2回例会においてクラブ奉仕委員会のクラブ内の位置づけ(クラブの縁の下の力持的役割)を説明し、今年度テーマ、細則の改正、新入会員向けのオリエンテーションプログラム実施について話をした。
2、7月22日の例会では会長経験者である会員による「地区特別月間ロータリーを考える」について卓話をしていただいた。
3、7月29日の例会終了後に昨年度入会された新入会員に対してオリエンテーションを実施した。ロータリーの組織、出席の重要性等について会長、幹事、前年度会長、前年・本年クラブ奉仕委員長が出席し約1時間にわたって説明および意見交換を行った。このようなオリエンテーションを今後も行う予定である。
-
- 32 ・ 当クラブは、年内行事を全て決めているので、その行事の中で熱心に議論し、同テーマを実施したい。

- 33 ・ 会員意識調査を前会員へお願いした。
質問事項
①ロータリーに何を求めていますか。
②ロータリーは今何をなすべきですか。
③ロータリアンとして自分の責務をどのように考えていますか。
④その他、ご意見、ご希望
調査結果を今後の参考にしたいと考えている。
-
- 34 ・ ロータリーが設定する各月間のスローガンに基づき、各委員長が主体となり例会中の卓話を担当した。幹事が司会を務め、会員を二つのグループに分け、討議を行ない、二つのグループによる発表をして、とりまとめた。
-
- 35 ・ 会長基本方針発表、入会式、各委員長就任挨拶、基本方針発表、誕生祝・3分間スピーチ、親睦夜間例会。
-
- 36 ・ 7月23日の例会時に6つのグループに分かれ「ロータリーとは」「ロータリーが出来ること」等をはじめとしてロータリーやクラブ会員拡大について意識を高め討議を進めました。
-
- 37 ・ 1) 会員100%の出席率を目標として遅刻途中退席を無くし楽しい例会作りに心がける。
2) ロータリー情報等を会員一同勉強し情報の収集に努める。
3) 年間を通して会員増強に努め更に強化月間を儲ける。(8月1日)
-
- 38 ・ 事業計画発表といたしまして2週間に亘り行いました。
各委員長の方針・計画発表により意見交換をいたしました。
-
- 39 ・ クラブ協議会にて、クラブ方針発表。事業計画発表。卓話：新入会員。
-
- 40 ・ 地区出向した会員による卓話を行いました。
実施日：2008年7月16日 / 2007～08年度東名古屋分区ガバナー補佐
2007～08年度ガバナー補佐幹事・2008～09年度地区クラブ奉仕委員
7月30日 / 岡本伊三雄(2006～08年度地区クラブ奉仕委員長)
山田 静夫(元名古屋第二分区代理・2008～09年度地区未来委員会委員)
-
- 41 ・ 7月14日(月)のクラブ奉仕担当フォーラムにて、以下のような方針のもと行った。
当クラブの会長のクラブ運営方針は、『豊橋南RCの43年の歴史と伝統を「和の心・和而不同」でもって、新しい世代に傳承し、若い力の結集で会員増強とクラブ基盤の強化を計りたい』としている。
そのクラブ方針を基に、「ロータリーの和の心を伝えて」のテーマのもと、会員歴の長い2名の会員より当クラブでの楽しいこと、思い出深いこと、お付き合いなどをお話し頂いた。昭和時代のRCのお付き合いとでも言うべき話を聞くことは新しい世代の会員にとってある種の驚きであり、また今後のロータリー活動を行っていく上で参考になり、大きな糧と成るであろうと考えます。またそれがクラブの歴史と伝統の傳承、クラブの活性化に繋がるものと考えました。そして、各テーブルにおいて、同様のテーマでお話し頂き、新しい世代の会員の方に意見を発表して頂いた。
-
- 42 ・ 2008～09年度RIテーマ：“夢をかたちに”
地区方針：“持続可能な前進”
会長方針：“魅力あるロータリーライフをめざそう”
各基本理念、哲学をベースに人間としてロータリアンとして真なる友愛の精神、奉仕活動の意義に関して歴代パスト会長はじめ会員相互間、積極的な意見交換。フォーラム形式にて課題展開。

① 「ロータリーを考える月間」をどのような内容で実施されましたか (3)

43 ・ 会長挨拶を通じてロータリーの奉仕について話した。

44 ・ 7月23日の例会において、地区クラブ奉仕副委員長に卓話をしていただき、クラブ運営の問題点および今後の方針について考えを拝聴した。

45 ・ まだ実施していませんが、個々の会員さんの考えを無記名で記入してもらい、例会場において発表しこれからの当クラブをどのように発展させるか討論していただく予定です。

46 ・ 我がクラブのここ数年来の退会者を考察すると、先進会員・中堅会員・新進会員平均に退会者が出ているように見受けられる。先進会員は体調不良等の理由が主ですが、中堅会員・新進会員はそれとは少し異なり誰かに相談するでもなく簡単に退会してしまう現状である。

- ・ ロータリーの目的が会員全体に認識されていない。
- ・ いろいろ寄付行為をしてもその成果報告がないので、お役にたっているのか実感が沸かない。
- ・ 委員会事業は、委員長一任で委員長ひとりが片づけ事務的にこなしている。
- ・ 会員の個人個人の考え方に違いがかなりあるのではないか。
- ・ 情報交換はできるが、ロータリーについて、意見交換の場がない。
- ・ 会員個人個人がクラブ内で疎外感を抱いている。
などなど、少しクラブを眺めてみただけでも退会の要因が出てきます。

解決方法として、

- ・ 親睦に活路を見いだす。楽しくなければ長続きしない
- ・ 同好会、任意の会の親睦会を活発に
- ・ 会員が疎外感を抱かないクラブ運営、役割分担をする等気を付けて会を運営できたらと思います。

そしてもう一つ大切なのは、時の会長が何らかの仕掛けをしていくことが出来るか、であると思います。提案ですが、

年に1、2回メインの大きな事業を行なってはいかがでしょうか。それは外に向けてでも内に向けてでもよいと思いますし、お金をかけなくてもよいと考えます。多くの卓話の時間を使って、クラブ内でひとつの事業にカンカンガクガク討論や、意見交換から始めて1事業を成し遂げる。その事業が自己満足に終わってもかまわない。次に改良すればよいと思うのです。そうすることがクラブ内の一体感を創り出すのではないかと思います。

半田南RCも一致団結し一丸となったときがありました。

それは、2002年に地区大会をお受けしたときです。当初は、クラブ内は混乱しました。準備が進むに連れだれもが切羽詰まり、崖っぷちの状態になり、そこから本大会前日・本大会に向かって40歳代から80歳代まで、先進会員・中堅会員・新進会員が一致団結し大会を終わらせることが出来ました。その時クラブが一丸となったと実感しました。翌日は、どんな大きな大会でもやってやるぞと思ったのは、私だけではないと思います。

私達のクラブも一時は70余名の会員を擁しておりました。毎年会員が減少しCLPを導入しなければならぬ会員数となり、今期からCLPを導入しました。今のところ、奉仕プロジェクト委員会の役割が曖昧になり、4大奉仕部門がぼやけてしまった様になっています。この状態から抜け出すためにも一つのプロジェクトを立ち上げそれぞれの奉仕部門が連携して地域に発信できれば良いのではと思っております。そうすることによりクラブの活性化が出来、会員増強も図ることが出来るのではと思っております。

我がクラブには代々引き継がれている暗黙の了解があります。「まずはやってみる」。ではないでしょうか。

(過日、会員維持増強委員会を中心に話しあいをしたものをまとめたものです。)

*ロータリーの“奉仕の精神”の再認識。

47 ・ 7月第2例会(10日)を、石田壽直前会長を卓話者とする「ロータリーを考える」例会としました。内容としては、「ロータリーテスト」としてロータリーの目的・性格・活動等への理解を試す十個の設問(○×方式)を記載した用紙を各会員に配付し、1問ごとに数名の会員に回答を求め、その後に石田直前会長より正解の発表とその解説を行いました。

-
- 48 ・ クラブ奉仕委員会に所属する全委員会に集まっていただき、クラブ奉仕委員会を開きました。
ロータリーの基本は個々の単一クラブ毎に行われる例会にあり、その認識の下に、いかに例会を和やかな雰囲気の中に、威厳ある例会にするにはどうしたらよいかをテーマに、それぞれの委員長から意見を出していただきました。会議の後半は食事をいただきながら和気あいあいの下、ロータリークラブらしい意義のある会になりました。
-
- 49 ・ 豊島パストガバナーよりロータリーについての卓話をしてもらいました。
-
- 50 ・ 7月3日 第一例会（新名称披露式典 祝宴）
会員一同、ロータリアンとしての誇りと意義を新たにするため新クラブのもと決意をあたらし、またこの時点で在籍している会員はすべてチャーターメンバーとして意識してもらおうようチャーターメンバーバッジを贈った。
-
- 51 ・ 特に定めた具体的な行事はありません。7月は年度の初めにあたり引継ぎセレモニー行事も多く、新会長が年度方針・活動を就任の辞として語るにより新たな気持ちでロータリーを考え、スタートすることが出来ました。
-
- 52 ・ 7月末の例会をクラブ奉仕担当のクラブフォーラムとして10周年を迎える節目の年に初代、二代、三代の会長にパネラーになっていただき会員全員でのフォーラムを実施しました。
-
- 53 ・ クラブ会長、幹事の方針のもとに、クラブ奉仕委員長をはじめ各委員長がそれぞれの方針について発表し、会員の協力を要請した。
-
- 54 ・ 第一例会：会長・幹事・副会長・SAA・副幹事挨拶。
第二例会：ガバナー補佐、四大奉仕委員長・会計挨拶。
第三例会：ローターアクトアワー
第四例会：卓話「米山翁をとり巻く群像」 講師：元三井信託銀行副社長 谷内 氏
第五例会：クラブ奉仕担当フォーラム「クラブの歴史に学び。未来に活かそう」
-
- 55 ・ 第2例会、第4例会で会長経験者から「ロータリーの話」「アンケート調査発表」を判りやすく話を頂いた。
第2例会の「ロータリーの話」は、地区ロータリー未来委員会委員長で第48代目会長の杉浦さんから、ロータリーの歴史、ロータリーの豆知識などお話しいただいた。
また第3例会では、過去岡崎RC会員意識アンケート調査を行った結果を基に、RCの再認識を促すお話しをいただいた。
-
- 56 ・ 例会で、クラブフォーラムを2週にわたって行い、「持続可能な前進」を目標に各委員会が今年度の計画を発表した。また、入会及び連続出席50年の会員に、「ロータリーの本質」というテーマでスピーチしていただいた。その他、遠隔地出席最多の会員から、世界各国のロータリー出席についてスピーチしていただいた。
-
- 57 ・ 7月中に実施することがスケジュール上不可欠であったことから、8月4日の例会において、会長及び会員増強委員長による卓話の形で行った。
-
- 58 ・ RCが発足してまだ6年目の愛知長久手RCは、まだまだ若い弱小RCでありますので、まずロータリーという活動に触れてゆくことから始めると考えています。活動の中に身をおいてこそ、肌で感じとれるのではと皆で考えております。
-
- 59 ・ ロータリー活動とは基本的に奉仕活動と考えております。各担当委員会と協力して下記支援活動を実施します。
大きな奉仕としては「ポリオプラス」活動への資金提供があり、本年も継続する予定です。同じくロータ

① 「ロータリーを考える月間」をどのような内容で実施されましたか (4)

リー財団への寄付活動も継続致します。

地域社会への奉仕活動として「書と音楽のコラボレーション」である書遊を本年も後援継続致します。
環境保全活動として、佐久島の清掃活動に参加致します。

60・ クラブ協議会を2回開催した。

1回目は会長の今年度の方針発表をうけて、各理事が運営方針の発表。

2回目は全委員長の事業計画の発表

その他委員会別IDMも順次開かれている。

例会で“ロータリーについて考える”のアンケートを配布し、8月までに回答を求めている。

61・ 交換留学生の受け入れをクラブ全体で考える。

62・ (まとめて記載したために抜粋してあります)

当クラブの良き伝統として、先輩会員を軸とした揺るぎない結束と信頼で結ばれた会員相互の交流があります。人口8～9万人の地方小都市にあって、当クラブは平均的に70～80人のクラブ会員を維持しています。密度の濃い交流がこの地域社会の情報を共有し、人材の発掘に役立っているし、新たに入会された会員を遇するに“忘れがたい”印象的な入会式とオリエンテーションそして推薦者が介添えしての懇親会と続きます。彼らが出来ただけ早くクラブを知り、仲間を知り、ロータリーを知る会員に成長してくれるよう導いてゆきます。一方これも当クラブの個性でしょうかクラブ奉仕の充実の一方で社会奉仕、国際奉仕には活発なプログラムを展開した経験が少ないように思います。

インターアクト、ローターアクト、交換留学生、海外支援のプログラムなどは余り話題に上がりません。(尤も米山記念奨学会、財団寄付などには顕著な実績を残しております。)これらは寄付行為として必ず誰かのために役立っているはずですが、残念なことにそのひとたちの顔を直に見て喜び、感動を共有することは出来ません。

願わくば奉仕の手をもっと直接差し伸べてお互いの感謝と感動を共有できるようなプログラムをもてるのが望ましいと思います。

会長はクラブの良き伝統を守り継ぐと同時に、次なる50年に向かう糸口として変えるべきは変えて、若い意欲に満ちた会員にとって、その奉仕活動が常に感動に満ちたものとして展開できるようなクラブを目指す」と表明しております。

具体的にはマンネリ化している委員会活動を見直し、再編し真に機能し、実のある奉仕活動をめざす。あるいは単年度だけではなく継続活動、積み重ねていく奉仕活動も欲しいし、逆にタイムリーに臨時的に組織されるような人道的なプロジェクトを立ち上げる必要に迫られることもあるかも知れない。

伝統的を守りつつも、フレキシブルな実効ある組織の再編が望まれる。

総括すれば当クラブの目指すところは、

- ①. 創立50周年記念式典にクラブの総力を結集する。
- ②. その成功へのプロセスと成功の喜びこそクラブ奉仕の理想である。
- ③. この結束をバネにして次なる50年に向けて旅立つ。
- ④. 50年積み上げた伝統の重さと先輩会員を大切に遇することを忘れないことと同時にクラブとして今後様々な時代の変化に対応できる柔軟な組織を構築していくなどの見直しも必要である。
- ⑤. 地方都市の濃密な人のネットワークを活かし情報を得て優れたロータリーアンの発掘を目指す。新会員には感動的な入会式と新鮮なプログラムを準備して常に刺激を与えることにより退会を防止する。
- ⑥. 最も基本的かつ大切なことは例会の充実である。厳粛なセレモニーと和やかな例会場の雰囲気、重みのある会長挨拶、卓話講師の“いい話だった”と思える30分、こころ尽くしの昼食、会いたい仲間へに会え、話しができることの喜び、こんなことが皆出席に繋がる。

63・ 本年度は創立40周年にあたりクラブの地域内に桜を100本植樹する。会員と地域の人々との共同作業にておこなう。

64・ 実施しておりません。

-
- 65 ・ 7月8日(火)七夕フォーラムの形で「ロータリーを考える」をテーマに行ないました。
最初にクラブ奉仕委員長が、ガバナー方針を中心に主旨を説明をし、そして情報委員長が問題提起をしながら、当クラブの現状を話した。
引き続き出席委員長・会報委員長・広報委員長・親睦委員長・雑誌委員長・会場委員長・プログラム委員長の7名が各々「向こう一年間を大いに語る」をテーマに一年間の活動方針を発表し、質疑応答に入り大変有意義なフォーラムの内容であった。
-
- 66 ・ 会長挨拶で会員に会員増強についてのアンケート結果を検証し、報告した。
-
- 67 ・ 会長挨拶の中で「ロータリーを考える月間」についてお話されました。
-
- 68 ・ 一宮ロータリーの活性化についてというテーマの下10名程度に分かれてのテーブルディスカッションを実施した。
-
- 69 ・ 7月17日第三例会内において地区クラブ奉仕委員会出向者の松井勇君及び地区クラブ奉仕委員長 藤原研一様を講師にお招きし、卓話形式にてクラブの活性化及びCLPのクラブに与える影響などをお話し頂き、クラブ及び例会の活性化を行った。
-
- 70 ・ イ) 7月14日第2例会にロータリーを考える月間に伴い、大竹和美初代会長と前田重廣プログラム委員長と掛け合い対談をRC基本的思想を大切に考えて会員全員を巻き込んで行いました。
ロ) ロータリーを考える、ロータリーの綱領について考える、討論をしました。
-
- 71 ・ 当クラブの最大の問題点は会員の高齢化です。その問題を解決できるのは若い特に40歳代の会員の入会です。このことについて全員で全委員会で議論いたしました。
-
- 72 ・ 7月は例年行事が決まっていて、特にロータリーを考えるというテーマでは実施できなかった。
-
- 73 ・ 7月の例会プログラムの都合で、「ロータリーを考える月間」は8月28日のクラブフォーラムにおいて、話し合いのテーマとする事になっています。
歴代会長からの提言として、当クラブの単年度で終わらない継続的な奉仕活動について話し合う予定です。
-
- 74 ・ 1) 7月例会プログラムについては、例年クラブフォーラムを行い、今年度の行事予定等の発表をし会員の興味ありそうな内容を毎回行いました。例会においては例年通りであったが当幹事より「CLP」を特に考えて実行してくれとの事、「クラブ奉仕委員」「一部会長OB」の8名で第一回の討論を行いました。
その内容の一部であります会員増強について8月22日に討論会を予定しています。
-
- 75 ・ 7月中のウィクリーレポートにロータリーを考える月間と記載し会員一人一人がロータリーに関心を持つように心がけた。
-
- 76 ・ 本年度の前期I. D. Mにおいて「ロータリーを考える」をテーマとして会員全員がロータリークラブ発足の目的、意義に関して討議を行い、ロータリーの綱領、定款、細則等を再確認した。
-
- 77 ・ 1) 今年度の卓話は、当初年度計画で「ロータリーを考える月間」の主として、パスト会長35人で実施することになっている。
2) 第1回目として、クラブの大先輩(ガバナー補佐経験者)のパスト会長が卓話を実施。非常に含蓄ある卓話で好評であった。
3) 委員会を2ブロックに分け問題提起の会議を実施した。
-

② クラブ活性化の方策について (1)

- 1 ・ 周年事業を終え36周年に突入した中堅クラブ特有の問題を検証してみる。
マンネリ化により継続事業が優先し新規事業への挑戦が薄らいでいる。まず、会長経験者および古参会員を今迄あたらず触らずの委員会(仮称)にいたのを各主要委員会の副委員長に配置しアドバイザーとして活躍の場を提供した。現役復帰の結果委員会構成において淀みがなくなり、活性化に寄与できている。入会2年の若い会員を委員長に起用した。
潤いクラブをめざし実践の伴った例会に挑戦、資金を出している継続事業については例会をその場に移し会員が体感し支援を実践する例会の実施。
岡崎げんき館における健康例会、名所旧跡を訪れる大樹寺例会・真福寺例会、季節を感じる観月例会、花見例会等新しい試みに挑戦。
WCSに挑戦。カンボジア、ティタゴイ小学校校舎増築支援開始、年度内に1教室完成。新たな挑戦によりマンネリ化を打破しクラブに潤いをあたえ若い会員の挑戦意欲を盛り立てる。
- 2 ・ 各委員会との協議会を重点に置き、一体となって各委員会の協力と理解をいただき一部の小委員会を合併し少人数の委員で活性化する。
- 3 ・ 今年度のクラブ活性化の方策として、第一に挙げられるのは「会員増強」です。
当クラブでは、近年、昭和30年代以降生まれの会員が13名と増え、活力に満ちたクラブに変化しつつあります。そして、今年度、創立50周年を迎えるにあたり、会員数100名を目標としております。既に上半期入会予定者が6名いますが、目標達成に向けて、更なる会員増強に努め、クラブの活性化を図ってまいりたいと思います。
- 4 ・ 例会への出席率を高めるため、内容のある議題を取り上げる。
会員同士のコミュニケーションを得るため、幅広い活動に心がける。
- 5 ・ ロータリーの原点は職業奉仕、会員の職業を理解鼓吹する機会を今まで以上に増しロータリアンとしての自覚、自信がもてる様クラブ運営をお願いしています。
- 6 ・ 今年度、クラブ奉仕はクラブ運営管理の根幹という会長の意識づけのもと、ロータリアンの心をより理解し、会員の自己研鑽と倫理の高揚、奉仕の理念の会得、相互理解と親睦、会員増強など「より魅了あるクラブ」をみんなで作っていく為、関連委員会間との連携を図っていきます。
- 7 ・ 現在、2006年度から3年計画で始まった大きな活性化プロジェクト「チャレンジ100」が活動中で、最終年度に会員100名を達成すべく、盛り上がっている。
この計画は、「クラブの活性化は会員の増強にあり」とする伊藤秀雄前会長の提唱の下に実行されてきたものであり、前年度は、日本一の会員増を達成した。このため、当クラブは、あらゆる面で、今までにない活況を呈している状態である。
- 8 ・ ① 昨年、CLPを導入したことにより、委員会数を絞ることによって、各委員会の構成人数を増やし、なおかつ、出来るだけ委員会の会合を重ねることで、全員が参加意識を持って取り組めるようにしています。
② 昨年度は、会員組織委員会主導で、ベテラン会員(チャーターメンバー)と、若手会員(入会3年未満)の懇親会を定期的に開催し、メンバーの融合を図ってきました。今年も、継続して行いたいと思います。
③ 以前から活発に行われていました、同好会活動を、さらに充実させ、例会場以外での親睦を図っていききたいと思います。
地域活性化を柱にした奉仕活動を以前から進めていますが、今年も全員参加でさまざまな奉仕活動に取り組むことで、活性化を図っていきます。
- 9 ・ 広いテリトリーの少ない人数で活性化も見当たりますが、会員増強を第一に考え、親睦活動を活発にし、家族的なクラブでやっていけたらと思います。

-
- 10 会長方針は「ゆっくりと楽しく」一年間クラブターゲットとして頑張っています。
- ・ 会長方針の中に「リフレッシュ田原RC」を掲げられ、内部充実と活性化を目指しています。ロータリーへの新たな熱意は、クラブの慣習を見直す事から始まると考えます。
 - ・ 会場設営の見直し
例会食・テーブル小物等細かな配慮を配り、和やかな例会場に
 - ・ 会員のお祝い見直し
例年の会員誕生日のお祝いの他に、還暦・喜寿等の人生節目のお祝いの追加
銀婚・金婚等の夫婦節目のお祝いの追加
会社創立〇〇周年といった仕事節目のお祝いの追加
 - ・ 親睦例会の充実
慣習的な家族例会を見直し、タイムリーで内容も濃く、満足度の高い例会の企画
 - ・ 週報の見直し 簡素で解りやすい週報とクラブの記録を電子化し、整理保存を図る
-
- 11 来年度はクラブ創立20周年という大きな節目を迎えるにあたり、クラブ挙げてのビッグイベントであるので、今年度の体制も人的にも資金的にも強力に支援する方針。
特に会員増強は20周年事業の成功へのキーポイントであり、クラブ一丸となって取り組む。
委員会活動の活性化を推進する為、委員会活動費の増加事業推進と親睦の観点からも隔月には委員会を開催し、打ち合わせをする。
-
- 12 CLPを次年度より取り入れるべく検討。
7月に第一案を検討委員会で協議し9月中旬に完成させ10月初旬までに全会員に示す予定。
社会的に弱い立場にある若者を援助すべく種々な活動を継続的に出来るよう計画する。
-
- 13 1. 各委員会は従来委員長の采配で運営される、所謂トップダウンで事業が実施されていたが、本年度は事あるごとに必ず委員会を開き、所謂ボトムアップでクラブを運営することを心がける。
2. CLPを活用し、全会員（歴代会長含む）で、会報、受付、ニコボックスを担当、全会員参加の例会とする。
-
- 14 本年度のクラブ会長テーマは、「例会に出席しよう」です。
まず、例会に出席をして、会員相互の理解と親睦を深め、その次に奉仕活動を行うことで、クラブを活性化していこうと考えています。
-
- 15 活性化の条件はまず会員の増強そして当クラブの会長方針でもある「友情の輪を広げ、絆を強くする」ための活動であります。会員増強のためにも対外的にメンバーが「うちのクラブはとても楽しく、素晴らしい活動をしている」と言えなければなりません。
クラブ奉仕委員会はすべての会員に、とにかく楽しんでいただく努力をしなければならないと思います。そうすることで事業の参加者が増え、年齢差を越えて友情の輪と絆がより一層深まり「岡崎南ロータリーってなかなか楽しそうだな」と思われるようになり、最終的には増強につながると考えます。
今年度は創立45周年も重なり、親睦活動委員会は特に会員の皆様に楽しんでいただくことを最重点と考え努力したいと思います。
-
- 16 1. 実りある例会の実施
外部卓話を増やし感動と刺激のある例会を行う。
2. 会員の増強純増2名目標
3. 地区ライラセミナーを成功させる。
今年度11月のライラセミナーは当クラブがホストです。
4. WCS活動ミャンマー教育支援プログラムの充実継続
ミャンマー教育支援プログラムは、歴代会長の理解の元、継続事業で本年度11年目の活動になります。
5. 新世代のための科学体験教室の継続
次世代の科学者を創るため継続する。

② クラブ活性化の方策について (2)

6. 家族例会・立食例会を充実し、笑顔あふれる親睦活動を。
年数回粗食例会を開催し、その財源を立食例会に充てる。
-
17. ① ゴルフ部会等、愛好会活動の奨励。
② 夜間例会の回数を多くし本音で話し合える場を増やす。
-
18. ひとりでも多く、新入会員を増やし、新しい空気を入れると共にお互いに尊重し合い、助け合う仲間
りに励みたい。
-
19. ロータリーテーマ月間の例会を関連委員会が担当して、すべてのクラブ会員に参加をしてもらい、その
テーマの充実の高揚を図り、クラブ活性化に努めます。
-
20. CLPを参考にして、クラブ内の委員会構成の簡素化と同時に、それに伴うクラブ細則等の変更をし
て、本年度から実行しましたが、まだ単に委員会を結合させたのみで、実際の活動には大きく変化はあ
りません。試行錯誤の状態です。
-
21. ①、RI補助金事業『KNOW NOH(能) BETTER』にクラブ員全員で取り組んだ。
7/13 能楽堂において事前勉強会の実施
7/26 留学生も含めたレセプションの開催
7/27 名駅薪能の実行
②、委員会事業、同好会事業を積極的に行っている。例会において毎回アナウンスが行われている。
-
22. CLP検討委員会を発足、検討内容を提案し、活性化できるものは積極的に推進していく方向。
-
23. クラブ奉仕協議会を年2回開催し、歴代会長及び各委員長、新入会員をお招きし懇談しロータリアン
のあり方を協議する。
-
24. 1) 各委員会と連携し有意義かつ楽しい例会と出席率を高める。
2) 会員増強をクラブ全体で支援するシステムを確立する。
3) 各委員会との親睦会を通じて積極的に交流をはかるとともに会員間の世代を超えた親睦を深める
努力をする。
-
25. 楽しく内容のあるロータリー活動実践の為、クラブ奉仕委員会担当例会において、親睦融和を高める。
ロータリー活動を地域にアピールする為、担当理事を選任し活動を活性化する。
-
26. 会員にロータリーの知識を広め、クラブ全体でより積極的に事業に取り組む。
和やかで楽しい例会運営、会員はもとより家族も含めた親睦を図り、楽しいクラブ運営を行なう。
-
27. 会員増強に積極的に取り組むこととし、年度内に8人の入会者を目標としている。また、退会者の防止
策としては、楽しく、魅力あるプログラムの実践に努めるようにしている。例えば、会場配置の変更
や、出張例会に家族の出席の機会を増やすなど実行。
-
28. 1. 例会運営委員会(仮称 会場・出席・SB)を設置して例会運営の一元化と効率化をした。
2. 炉辺会合を含め委員会開催回数を増やす。
3. 地区補助金活用のプログラムをテコにクラブ全体による外に向けての活動を強化する。
4. 家族会を地元密着型プログラムにして地域再発見に家族も参加して楽しみながらロータリーの地域に
おける役割を考える機会を作り出す。

-
- 29 ・ 1. 会員の卓話を増やす等、例会の一層の充実を図る。→「待ち遠しい例会」。
2. 趣味の会を充実させ、会員相互の交流、親睦を深め、仲間意識を醸成する。
3. 新入会員並びに既存会員の研修の場の充実。
4. 委員会活動の充実。
5. クラブの管理運営機構の見直し。→CLP導入。
-
- 30 ・ 顔の見える奉仕活動を展開することにより、ロータリーの奉仕活動の「公共イメージ」をアップさせ、さらにマスコミと大いに連携を深め、地域社会にロータリー活動を浸透させていく。そのことが会員増強につながり、ひいてはロータリーの活性化になっていくと考え進めている。
-
- 31 ・ 会員増強につくる。但し、「質」の保持につとめるようにしている。
-
- 32 ・ ①充実した例会 (1)楽しい食事での親睦、情報交換
(2)卓話は会員の資質向上へつながる内容で
特に、プログラム委員会、会場設営委員会に協力を要請。
②会員の友情と信頼を深める和気あいあいムードの親睦会
(1)夜間例会4回(本年度は1回は30周年式典親睦会で)
(2)家族会2回(クリスマス、春の家族会)
特に、親睦委員会に協力要請。
③30周年記念式典、記念事業を経験豊富な会員(パスト会長等)のアドバイスのもと、若手に実行の主導を委ね、会員の成長と結束を図る。
-
- 33 ・ 1. 昨年度は、クラブの活性における問題点の調査をクラブ所属年数ごとに会員を組み分けし、意識調査を行った。その結果、所属年数が浅いほどロータリー規約の認識が十分でないところが見受けられた。当クラブの特色を新入会員に理解して頂く必要のあることが再認識された。
2. 各委員会の編成を見直し、主要な委員会へ関連する委員会を纏め、委員会を構成する委員が、各自手分けして地区委員会へ出席するなどに努め、その結果を例会で報告することにより、各会員の帰属意識が高められるよう配慮した。
例会での報告により、全会員にも情報が共有化されることにより帰属意識を高めることを狙いとしている。
-
- 34 ・ 高齢化したクラブメンバーを積極的に活動してもらえる様、あらゆる機会を利用し、告知し、活動を促した。しかしながら、志なかばと言った感はいなめない。
-
- 35 ・ 会員一人ひとりが自分の主張、個性を発揮すると同時に他人の意見にも良く耳を傾ける。各委員会は委員長任せでなく委員全員で取組み、参加意識を高めていきたい。また幅広い人材確保と友情の輪を広げ、クラブ全員で増強に力を入れクラブの活力にしていきたいと思います。
委員会の統廃合・クラブ細則の見直し・誕生祝の3分間スピーチ・親睦夜間例会・親睦ゴルフ・友人招待例会。
-
- 36 ・ 1. 会長・幹事・4大委員長が活動の中心となり会員全員がクラブの運営に取り組む。
2. クラブの活性化を図るために、会員同士の知識の向上と相互の理解を深める。(人間形成の場)
3. 会員減少にある今日、クラブの運営費の中で食事経費の負担が大きく会員の理解を得て経費縮小に努める。
-
- 37 ・ 1. 魅力ある例会を心がけ出席率の向上と親睦を図る。 2. 会員増強を図る。 3. クラブの実情にあった奉仕活動の推進。
-
- 38 ・ 1. 同好会活動を考える。(ゴルフ同好会、読書クラブ) 2. 家族の方のクラブ参加。

② クラブ活性化の方策について (3)

- 39・ 当クラブは来年50周年を迎えるため、会員がクラブの50年の歴史を理解すると共に、周年記念事業の準備を進める事によっえ、未来像の構築を探り、形にしていきたいと思ひます。併せて本年度会長が掲げる「楽しく、規律あるロータリーライフを通じ会員相互の親睦を固り、友情を深めよう」のテーマのもと会員の更なる交流を進めることで新しい可能性を創出したいと思ひます。
-
- 40・ 1. 会員融和の強化：夜間例会、家族参加例会、趣味の会の増加。
2. 会員増加、退会防止策の強化：全会員の意識昂揚、地道な会員勧誘、新入会員歓迎策、新旧会員の融和。
3. クラブ奉仕委員会メンバーの意見交換会；改善案の積極的採用。
4. 地元の社会活動への貢献
5. 「四つのテスト」の歌を、例会に多く採用。
-
- 41・ 会長の運営方針を尊重しながら、クラブ活動が円滑に運営されるように支援、協力をを行い、クラブの繁栄と活力アップに努める。
-
- 42・ 例会場において、入会歴、年代の若い人に多く発言をしてもらふ事により、経験、年代によって個々のロータリーの知識、考えを知っていただくことによつて活性化が計れると思ひます。
-
- 43・ 1) 例会づくりを工夫して、活性化を計る。
2) 国際大会に参加するなど、国際ロータリー事業を活かし活性化を計る。
3) 「クラブ友の会」など、会内の親睦を計る機会を多くする。
4) I. D. M. やゆつたり例会を行い、会員相互の会話の機会を多くする。
-
- 44・ クラブはロータリークラブの基本理念を持ち、各地域に根ざした活動を行つており、その特性は各クラブの活性化を促し、よき伝統を作るものと思ふ。
-
- 45・ 例会運営に際して会場設営の新鮮、尚且つオリジナルな雰囲気演出を通じ会員相互の尚一層の交流推進。意義ある運営展開。
年間企画行事：創立記念日、夜間例会、春の家族会、卓話、支援企画行事、新人歓迎会、ゆかた例会等、さらなる内容充実展開。
趣味の会：ゴルフ会、写楽会、麻雀会、食べ歩きの会、焼肉会等の企画展開。
第2760地区：地区大会のホストとして会員一丸となつての役割貫徹。
-
- 46・ 我々クラブ奉仕は内向きの奉仕として特に出席担当、親睦担当を活性化させ、メーキャップされるビジター及びゲストを丁寧に接待し、又自クラブの親睦を固りだれとでも気軽に話しができる様務める。
-
- 47・ 1) 例会への出席の促進
当クラブでは、次の例会への出欠予定を各会員がクラブのサイト上で登録するようにしていますが、出欠登録がなされていない会員に例会2日前には登録を呼び掛けるメールを送付し、出席への意識付けを行つてきています。また、例会前日には全会員への直前例会案内メールの送信も行ひ、他方、出席状況の芳しくないメンバーには、推薦会員にフォローをお願いしたりしています。
このような種々の方策を講じたことにより、昨年度はホームクラブ例会への出席率が80%を超えるに至りました。今年度も更なる出席率向上を目指しています。
2) 親睦行事の充実
納涼会、クリスマス会、新年会、花見例会といったように、季節ごとに親睦を目的とした例会を開催し、そのうちのいくつかを家族参加型として、会員相互の親睦に努めてきています。また、年度終わりのころには、宿泊を伴う研修旅行を毎年度実施してきており、これにも多数の会員が参加しています（今年6月の研修旅行は欠席者4名のみ）。
3) 委員会開催の奨励
当クラブでは、仕事の差し支えにならないよう朝例会を選択していることもあつて、理事会や委員会は原則として例会の前後に行ふことをせず、別の日・別の時間帯（昼食時や夕食時）に開催するようにし

ています。理事会はクラブ細則において、また、委員会はクラブ内規において、毎月1回開催するものと規定されており、理事会はもちろんのこと幾つかの委員会においてもこれに従って月1回の開催をしてきました。特に、本年度に入ってから、全委員会が毎月1回の委員会開催を行うようになってきており、委員会の活性化及び会員の親睦強化に貢献しています。

- 48 ・ 例会の冒頭の会長挨拶いかんによつて、その日の例会の雰囲気が決まると言っても過言ではない程、会長挨拶は大切な要素です。そして美味しい食事、より魅力ある卓話者の選出等に気を配っています。
- 49 ・ 会員卓話を増やし、会員相互の理解を深める。
例会に趣向を凝らし、親睦を図る。
- 50 ・ 1) 例会の講師は、会員のニーズに合った魅力的な方をお願いする。
2) 例会は楽しく会員同士の交流の場とし。各種行事に積極的に参加できるよう積極的にPRする。例会場にPR用の掲示板が設置してある。
3) 例会の食事を12時10分に開始し、20分間会員の懇談の時間をとる。テーブルごとにテーブルマスターをおき、ビジター、新入会員の紹介、資料の配布などをする。テーブル上に顔写真入りの会員名簿を配置し会員同士の交流に努める。
- 51 ・ 当クラブの会員数は最盛期の半数以下の30名であり、まず会員増強が第一と考え、積極的に取り組んでいる。
- 52 ・ 友情と親睦を深めるための企画を、出席、親睦委員会の二つの委員会にさせていただきより多くの会員の出席を促すために理事会で審議して実施する。
- 53 ・ 例会が楽しく親睦が図れる充実した場になるよう心がけるという会長の基本理念に基づき、例会を充実させるようなプログラムを行います。その為に様々なジャンルに精通するプログラム委員を指名し卓話講師の選定につとめます。
- 54 ・ 名古屋丸の内RCは2007～2008年度当初に未来委員会及びCLP検討委員会を設置し、今後のクラブ運営のあり方について具体的な検討に入りました。
未来委員会が最初に取り組んだのは、クラブ名称を魅力ある名称にしようではないか（名古屋西南RCより）、区域限界を名古屋市全域及びその周辺と広く会員を募ることができるようにしてはどうか、又、事務局の家賃の交渉等具体的項目を挙げ検討をした結果、家賃交渉に成功し、名称変更も実現し、新入会員7名と再入会員1名を迎えることが出来ました。未来委員会の設置により、会員各位の意識の高揚に繋がったのではないかと思います。
- 55 ・ 特別な取り組みはしていない。
- 56 ・ 各委員会の自主性を尊重し、また、必要な場合共同で事業を行うようにしたい。
クラブの持つ良い特性を生かし、風通しの良いクラブ運営をはかり、もってクラブの会員拡大をはかりたい。小ミーティング（炉辺会議）を重視し、親睦活動を軸としてメンバー間の相互の理解を深めたい。
- 57 ・ 入会した会員（2年未満）の方々を集めてRCを理解する会を考えています。
機会がある事に集まりRCを考えています。
- 58 ・ 1) 会員減少の傾向にあるため、クラブの活動を、より魅力あるものにする必要がある。その為には、会員間の意思疎通が十分にできるようにしなければならない。そこで、毎回の例会の楽しい、和気藹々とした雰囲気づくりに心がける。
2) クラブの活動を、より活発化するためには、各会員が委員会活動を大きな負担と感ぜないような姿が理想である。その為には人的・物的拡張が不可欠となるため、会員増強に心がける。

② クラブ活性化の方策について (4)

- 59・ 55周年を迎える今年度は例会の事業に加え、周年事業を通じ、社会奉仕・会員相互の親睦など更なる活性化を図る。
-
- 60・ 当クラブは残念ながら全会員数は27名まで減少している。
しかしながらご夫人参加例会を頻繁に開催しており、例会の雰囲気は大変和やかなものとなっている。
今後はこれに甘んじることなく活発な会の運営の為にはどうしても会員数の大幅な増強が欠かせません。
本年度、会員数10名の増をめざして会員増強委員会を中心として頑張りたいと気を引き締めております。
-
- 61・ ホストファミリー募集の協力
-
- 62・ クラブ奉仕委員会の中で親睦活動(家族)委員会を中心に楽しみと興味をそそる内容を考える。
今迄実施したことのない親睦プログラムや参加していごちの良い例会につとめたい。
-
- 63・ 1、若手新入会員の増強に努める。
2、他クラブとの合同例会を行う。
3、家族例会の回数を増やし会員家族の交流を深める。
-
- 64・ 本年度会長は8年間という長きにわたり、地区に出向していた関係で、多くの情報と人脈と経験を有し、他クラブの良い点、成功事例等多くを導入し、クラブのまんねり化防止に努力している。
クラブ奉仕委員会の委員長には、3名の幹事経験者を含めベテラン委員長を配し各々が個性とアイディアを出している。
-
- 65・ 魅力ある例会プログラムの運営と、親睦事業の充実を図る。
-
- 66・ 会員増強が一番だと思います。新しい人材がクラブを搅拌してくれると思います。
-
- 67・ 1) 家族例会を増やしたらどうか、昔は一泊の旅行もしていたのでその検討をしてみたらどうか
2) メークアップの期間が前後2週間というのは実際に例会を訪問する事が減り、他クラブの会員との交流もさることながら、員間の交流も少なくなってしまう。もう一度1週間に考え直すのも良いのではないか
3) 例会の活性化の為には、魅力ある講師選定によって、出席したくなる例会づくりを目指したらどうか
4) 四つのテストを以前は各会員が自社に掲げていたが、ロータリーをもっと人に話す機会を作ること
も大事ではないか
5) サラリーマン会員の場合、任期が2、3年となっている為に、会員の皆さんと解けこむ事を模索しているが、出来ればもう少し会員同士が交流しあえるアットホームな例会を増やしていただければとの意見が多くあった。
-
- 58・ 新入会員の継続的拡大と課外活動(野球部、スキー同好会、読書会、囲碁同好会等)の活性化による会員間の親睦活動の充実昨年よりクラブとして係わり始めた「キッズサッカーフェスティバル」への継続的關係の検討を本年度より始めると同時に2年後に迎えるクラブ創立50周年に向けての準備。
-
- 69・ イ) 諸問題を例会、役員会に発表をして問題点の細分化、意見の調達、問題解決あまクラブとしての基本方針の決定(各自の納得の方向決め。)諸問題はクラブと各自の問題である、納得ができない時はもう一度説明をする。
ロ) 当クラブは13の趣味の会が有り、それぞれの趣味の会に参加して教養と豊かな精神を高める、人と人の関係が深まり頑強なクラブ運営できる。例会時と違い彼にはこの様な面が有ることに気が付き驚かされる、又、感動する事が大いにある、そんな時自分はロータリーに所属して居て大変よかったですとおもいます、良いクラブは良い人間関係が大事です、信頼できる人間関係。

-
- 70 ・ 活性化についてクラブ奉仕委員会は会員増強及び維持委員会を全面的にバックアップをし増強プラン「チャレンジ30」を立ち上げて3年計画で30名増員する計画案を実行する。
-
- 71 ・ 会長の発案で様々な変化を取り入れて運営している。例えば月1回の夜間例会、懇親会を設営して会員間のコミュニケーションの場をつくっている。
-
- 72 ・ 今年度会長方針に基づき、「親睦」に重点を置いた活動をし、楽しいクラブ作りを目指します。
また、会員増強計画「3-65」により、3年で15人増を目指し活動します。今年度は既に3人増を達成しました。
委員会の活性化を図る為、月1回例会時に委員会毎の着席とし、委員会から委員への出席要請をして、委員会開催による委員への参加意識を高め、合わせて例会出席率の向上を図るべく計画しています。
-
- 73 ・ 1) クラブ発足18年に入り「中だるみ?」「仲良しクラブ」「ロータリアンらしさはあるのか?」「世間から評価されているか?」等問題とされることも見受けられる。
活性化は「クラブの魅力」「会員増強」にある。
-
- 74 ・ 今年度は40周年にあたる年。特に親睦活動を中心として活性化をはかりたい。
-
- 75 ・ 1. 効果的なクラブの要素に取り組む長期計画を立案し、長期計画と合致した年間目標を設定する。
2. クラブ協議会を開催し、会員に計画策定に参加してもらい、ロータリーに関する情報を常に把握している状態にする。
-
- 77 ・ ①例会形式を月1回立食形式とした。また、夜間例会を月1回実施することにした。
②情報委員会による、新会員の研修、またスポンサー以外に専任の先輩会員を2名つける。
③25周年記念事業年度があるので、会員参加の実行委員会を組織して、共同作業を通じて一体感を図る。
奉仕委員長及びエレクトを中心に活力あるクラブにするための方策委員会を立ち上げて来年以降据えて検討する。
④事業上の意見交換が少なかったので、意見交換会を実施し、その場で人間形成あるいは人となりを発表してもらおう。
⑤会員の中に、絵画、俳句、写真、茶花道に秀でた人がいるので、発表してもらったり、事務所に掲示したりして士気を高める。
⑥年度計画に、出席奨励例会、ニコボックス感謝例会を隔月に予定した。
-

③ 人的資源の強化に関連した会員育成のプログラムについて (1)

- 1 ・ 会員増強拡大月間において増強の啓蒙を行う。

- 2 ・ 情報委員長の指導のもとに、入会3年未満の会員に対して、年3度ほどの勉強会を開き、ロータリーの啓蒙に努力し、円滑な運営に寄与します。

- 3 ・ 当クラブでは入会した会員に対し、ロータリー情報委員長によるロータリーについてのきめの細かいオリエンテーションを必ず開催し、ロータリーの基礎知識をレクチャーしております。
また、当クラブでの新入会員は、主に「会場設営委員会」「親睦活動委員会」に配属されます。この2つの委員会には、地区の委員会にも出向しているベテラン会員も配属されており、ロータリーについて学ぶ機会も自然と多くなります。しかも、この2委員会は合同で委員会や懇親会を開催する機会が多く、会員間の親睦を深め、将来を担う若手会員の育成には最適と考えます。

- 4 ・ 当クラブは第一に会員増強と退会防止に努める。
クラブ管理でマンネリ化をさげ、明るいコミュニケーションクラブの実現を計る。

- 5 ・ 新入会員が一日も早く当クラブになじめるよう、会員組織委員会を中心にして、オリエンテーションプログラムを組む。また、昨年度から実施したウエルカムデスクやニューカマーズチェアもベテラン会員と新入会員との親交を深められる良い機会であるので、今年度も継続する。

- 6 ・ 新入会員に対してはパストガバナー、パスト地区幹事を講師として勉強会を行う。夜間委員会別会議を懇親会として行い、新入会員の教育と会員相互の親睦を図る。

- 7 ・ 1. 委員会を随時開催することで、メンバー間の意見交換は勿論のこと互いの意思疎通も図られ、クラブ全体の融和増進に繋がり、若いメンバーの育成にもなると期待する。
2. 会員全体で増強をめざし、具体的戦術をもとに会員各自が最低一人の紹介を実行する気概で取り組む。

- 8 ・ 会員増強委員会が中心となって会員増強に務める。
また、新入会員の教育を増強委員会、ロータリー情報委員会と協力をして、退会防止にも力を入れていきたい。

- 9 ・ 例会の30分前には会場に集まり、話し合いの機会をもつようにしています。

- 10 ・ 特に会員育成のプログラムについては考えていませんが、当クラブに相応しい資質の新会員の増強を推し進めて入会時にロータリー情報委員長をはじめとして、しっかり教育して入会して頂くことにしている。

- 11 ・ 会員の育成は、ロータリーを理解し、ロータリーに融け込むことが重要と思われる。
①当クラブは、新入会員に対してインストラクター制度を設けて実行している。インストラクターは、新入会員を1年間に亘って補佐し、指導し、ロータリーを理解し、その知識を早く身に付け、他の会員と親しくなるようにするためのものである。
②当クラブは、同好会が未だ十分ではない。今後、同好会を育成し、同好会への積極的な参加を呼びかけて、他の会員と意思の疎通をはかることができるようにしていく。
③委員会への適正な配属。会員が十分に力を発揮できるように各委員会に適正に配属することを心懸ける。

- 12 ・ ①クラブ活性化の方策でも述べましたが、会員組織委員会主導で、ベテラン会員（チャーターメンバー）と、若手会員（入会3年未満）の懇親会を定期的で開催し、メンバーの融合とロータリー精神の継承を図っていきます。
②クラブアッセンブリーに、入会3年未満の会員を、オブザーバーとして入れることで、クラブ運営の実態を知ってもらう機会を作っています。

-
- 13 ・ 出会いの大切さを考え、お互い学びあう事が自分自身の向上につながる。その場所はクラブの中・フォーラム・メーキャップ・地区大会・地区協議会・委員会に積極的に参加するように呼びかける。
-
- 14 ・ 年間を通し、毎月1回以上「ロータリー情報タイム」を例会時に行う。
情報提供を行う事により「あなたにとってのロータリーとは？」を再考し、より魅力的なロータリーライフを楽しんでいただく。
・ 毎月1回以上、例会時に「ロータリーの友」「地区報」の読みどころの紹介を行い、貴重な情報源を身にかけていただく。
・ 入会3年未満の会員の為の研修会を開催する。
-
- 15 ・ 例会およびロータリー情報委員会において、クラブの行なう各種事業の歴史的経緯や意義を紹介したり、地区委員会からの情報を会員に周知しています。
新入会員には出来るだけ親睦活動および会場委員会に配属し、早期に顔や名前を覚えてもらうと共にクラブ奉仕の大切さを知っていただくことが育成に関しては重要と考えます。
-
- 16 ・ 新世代のための科学体験教室の継続、新世代への奉仕活動としては地域で歓迎を受けている。
次世代の科学者を創るために継続する。
-
- 17 ・ 当クラブでは親睦委員会が中心となり新入会員の歓迎会を行いクラブの過去の話や各委員会のあり方等を飲みながら話し合う。
-
- 18 ・ 特に実施はしていませんが、卓話についてできるだけ会員にしてもらっている。
-
- 19 ・ 例会時のテーブル席の配置を検討し、会員相互の親睦をはかれるよう工夫したり、月1回の持ち出し例会を企画し、出席して親睦をはかれるよう努めます。
また、クラブ同好会の呼びかけを会員にし、会員育成に取り組んでまいります。
-
- 20 ・ 研修委員会を独立させて、江崎パストガバナーを講師にして5年未満の会員と希望者に、ロータリーを学ぶ・ロータリーを知る、をテーマに、定期的に勉強会を催す。
-
- 21 ・ 1) 入会の新しい会員を積極的にクラブ奉仕関係の重責を担ってもらい早期にアクティブな会員になっていただくことに心がけている。
2) 同好会活動に新入会員を積極的にさそっている。
3) 年2回、クラブ情報委員会において、新入会員歓迎プログラムを実施している。
4) ゴールデンパーツ制度と称した新入会員をフォローする担当制度を設けている。
-
- 22 ・ 奉仕活動の取り組みについて、ロータリー精神の心、等についてPR。
親睦と友情を深めエンジョイ・ロータリーで。
-
- 23 ・ 新入会員との融和を計る機会を年2回程度設ける。
-
- 24 ・ 当クラブの会員を輩出している地元名門企業や大手企業が経済事情の変化で後任への引継ぎを中断しており、会員増強の意味から積極的に各企業にアプローチするプログラムを確立し実施する。
また、メンバーによる卓話を適時組み込み、会員相互の一層の理解向上につなげるとともに新入会員のイニシエーションスピーチを出来るだけ早く実施しロータリアンとして自覚をうながす。
-
- 25 ・ 新入会員を対象にオリエンテーションを実施し、パスト会長等によるロータリアンとしての自覚を持ってもらうよう活動する。

③ 人的資源の強化に関連した会員育成のプログラムについて (2)

- 26 ・ 新入会員のクラブ活動への理解と相互コミュニケーションを図る。
四大奉仕の常任委員を中心に、ロータリー指導者の育成及び新入会員オリエンテーションを企画、運営する。
-
- 27 ・ 新入会員へのオリエンテーションを早期に実施する。
10月 8日(水)の例会にて米山奨学会への寄金について委員長より説明とお願いをする。
11月19日(水)の例会にて、ロータリー財団への寄金について委員長より説明とお願いをする。
100万ドル例会食事の実施
-
- 28 ・ 1. ロータリーを理解し、なじめるよう会員歴の長短を組み合わせる機会を多く設定する。
2. 毎月第1例会にロータリー情報のプログラムを設定する。
-
- 29 ・ 1. 新入会員に対してロータリー情報委員長によるロータリーについてのオリエンテーションを実施している。また、親睦活動委員会に配属し、早くクラブに溶け込めるようにしている。
2. クラブアッセンブリーに入会3年未満の会員をオブザーバー出席させている。
3. 毎月1回、例会で「ロータリーの友」の読みどころを紹介している。
4. インフォーマルミーティングを年4回程度開催し、自由な雰囲気の中でロータリーの魅力等について語り合い、親睦を深めている。
5. クラブリーダー育成のために地区委員への推挙に努めている。
-
- 30 ・ 2年ごとに当クラブ独自の「ロータリー要覧-ロータリアンの手引き-」をロータリー情報委員会を中心に作成し、3年未満の会員は毎年研修会に参加し、パスト会長、各委員長より指導を受ける場を設けている。その他の会員については例会のおり、ロータリー情報委員より変更事項等の指導を受けている。手引きは全会員に配布する。
-
- 31 ・ 現在のところ考えていない。
将来的には会○委員会を設置することも考えられる。
-
- 32 ・ 新入会員のみならずロータリー経験の短い会員を対象にRCの勉強会を開く。
特に、ロータリー情報委員会に協力要請。
-
- 33 ・ クラブの活性化、帰属意識の調査のため、昨年度は所属年数別に会員を分け、クラブに望むもの、その帰属意識等について意見聴取を実施した。その機会を捉えて当クラブの特色である家族を含むクラブの一体感、年齢やクラブの在籍年数にこだわらない会員間のフランクな付き合い等につき説明した。本年は上記のような会員の意識調査を踏まえた新入会員育成プログラムを作成し次年度以降も新入会員に対しオリエンテーションを行う予定である。
-
- 34 ・ 地区が推進するプログラムの重要性は充分認識はしているが、いまさら会員育成をと言うメンバーの甘えと、能動的に動く人が未だ現れてきていない。
-
- 35 ・ 各方面より有識者・諸先輩の卓話。新入会員の勉強会 年2回以上。各委員長の卓話。ガバナー訪問。入会5年以下の会員は地区大会・分区大会等地区行事には出席。
-
- 36 ・ 1. 他クラブからメーキャップにお見えになられた方(来訪者)でも友好的にお迎えし気持ちよく出席していただくように心がける。
2. 公私の別なく世の中の人々の為、理想的な奉仕を心がける。
3. 親睦委員長さん楽しい親睦の企画をたてていただき楽しむときは、おおいに楽しみ明日への活力に努める。
-
- 37 ・ 新入会員ミーティングの開催。

38 ・ 1. 新入会員のオリエンテーション。 2. I. D. M. 3. 「ロータリーの友」全員配付。

39 ・ 従来は先輩会員が折に触れて、歴史や伝統について教授する機会がありましたが、そのような機会の減少や年齢的乖離等がありコミュニケーションの場が少なくなっていると思われます。そこで本年は会長所信に3年未満の会員の勉強会を実施してロータリーについて学んでいただく話し合い、ふれあいの場の実施をいたします。

40 ・ 1. 新入会員へのオリエンテーション。
2. 若手会員（入会3年迄位）とベテラン会員との混在席の指定。
3. 若手会員の委員会活動等への積極的登用。

41 ・ 当クラブは老・壮・青間の断絶等も少なく、クラブ内の協力体制も充実している。今後もそれに満足することなく、入会年度の浅い会員がクラブ内に溶け込めるように配慮し、歴史と伝統の伝承等を通じて、世代間の垣根を取り払い、会員相互の親睦、クラブの活性化を図る例会を促進する。

42 ・ 地区方針：“持続可能な前進”の真なる意義の理解、把握の展開。
ロータリーの綱領、ロータリーの精神、四つのテスト、超我の奉仕等のロータリー理念の再確認。
会員増強推進。
新入会員へのオリエンテーション。
ホームクラブの管理、運営の充実確立。

43 ・ 先輩、後輩と一つの組み合わせで共に行動する事によってロータリアンとしての知識、行動等を把握してもらう。

44 ・ 1) 地区の委員会などに参加し、ロータリーが目指す奉仕の理解を深めることで会員の能力を引き上げる。
2) 例会の時間を活かして、会員のロータリーに対する知識を深めるよう企画する。
3) クラブ委員会内で、会員歴の古い会員と新しい会員とを調和をもって配置し、新しい会員の能力向上を目指す。

45 ・ クラブ員は入会時に入会資格をチェックしており、ロータリーにふさわしい人たちの集まりであり、責務を委員会に所属することで理解していくので、入会間もない頃は複数の委員会に配属し、会務の遂行を早く覚えてもらうべきである。
奉仕活動を通して、各自の職業意識とクラブへの参加意識の向上を目指す。

46 ・ 新入会員オリエンテーションの実施

47 ・ 各月の強化事項に対応して、ロータリーを学ぶための例会を定期的で開催するようになっています。また、新入会員に対しては、会長経験者によるオリエンテーションを実施しています。
当クラブの場合には、会員数が少ないため、地区協議会や地区の委員長会議等へ出席すべき会員の割合も自ずと高くなり、クラブの外でロータリーについて学ぶ機会についても恵まれていると考えられます。これら地区の会合等へ出席した後は、委員会報告等の形で全会員に還元することも心掛けています。

48 ・ 特にこれといってしていません

49 ・ ベテラン会員のロータリーに関する卓話及びクラブ外の教育者の卓話を増やし、会員の資質の向上を図る。

50 ・ 会員育成に関しては、ロータリー情報委員が中心となり、研修を計画している。

③ 人的資源の強化に関連した会員育成のプログラムについて (3)

- 51 ・ 名古屋丸の内RCでは、2007～2008年度にロータリー情報委員長を中心に新入会員に対し、各奉仕委員長を講師として研修を実施しました。
2008～2009年度もロータリー情報委員長を中心に検討がされており、特に今期は新入会員1名に1名のベテラン会員のカウンセラーをつけ、少しでも早くロータリーを理解していただき、当クラブの近未来を担う会員となって頂きます。
また、CLP（奉仕・財団・管理・増強の各グループ）の導入により一人の会員が同じグループに原則として3年所属することにより、一層理解度を深めることが出来るのではないかと思います。
- 52 ・ 特にありません。
- 53 ・ 前に述べましたように10周年を迎えます。58名～60名の会員数の増強に向かって、勿論会長方針のもとに、会員増強委員会を先頭に全員で目標を達成する。
- 54 ・ 1) 入会前にインフォメーションを丁寧に説明し、不安なく入会できるようにする。
2) 家庭集会に新入会員を中心にお呼びし、交流と情報交換につとめる。
3) 新入会員を親睦活動委員会に所属させて会員相互の交流と各種行事に積極的に参加してもらう。
4) RCの対外的な事業をホストし、会員がその事業に積極的にかかわることでクラブの活性化と同時に会員相互の交流をはかる。
- 55 ・ 入会年数の若い会員を対象に、家庭集会を開催、地区大会などは出席義務としている。また、クラブアッセンブリーへの、オブザーバー出席も義務づけている。
- 56 ・ ロータリー情報委員会を中心に、入会年度の新しいメンバーにロータリーに対する理解を深めたい。例会の充実と委員会活動の活発化が、会員育成の基本であると考え、楽しいクラブ生活の中に、ロータリアンとしての心づかいを重視していきたいと思う。
- 57 ・ 特別なプログラムは用意しないが、新会員を、親睦・ニコボックスなど、できるだけ多くの会員と接触できる場に配属し、円滑かつ迅速にロータリーの心を感じ取るように配慮している。
- 58 ・ 機会がある事にゲストとして例会に出席していただくようにしました。
それと、卓話により外のRCの方のお話によりご指導をしていただくとよいと思います。
- 59 ・ 会員育成プログラムはつまるところ会員数の大幅な増強にかかっている。会員の質の向上はそれだけをめざして達成できるものではなく、会員数の増大とともに質的な向上にもすすんでいくのが一般的と考えています。本年度は会員数の増大に焦点を当てて活動をすすめます。
- 60 ・ 検討中
- 61 ・ 特になし
- 62 ・ 1、ロータリー情報委員長が3年未満の会員の教育を行う。
2、オリエンテーションを開催する。
3、例会の席で新入会員のためにロータリー用語など話し合う。
- 63 ・ 財団は一人100ドル、米山は普通、特別で一万円を寄付しており財団寄付は昨年度より30%増加し、本年累計10万ドルを目標にしていきたい。米山功労クラブを毎年いただいていることを会員の誇りとしています。
また、当クラブは少数クラブにありがちな沈滞したムードを打破した楽しいクラブになっていくよう、特に新入会員が多くなってきたため新入会員とのコミュニケーションをはかることを重点に実施しています。

-
- 64 ・ 1) 地区へ3名出向して常に中央の情報収集に努めている。
2) 会員増強には会長・幹事・増強委員長を中心に、JC卒業者・業界のリーダー役・出来るだけ年齢の若い人に積極的にアタックしている。
3) 入会3年未満会員の研修を家庭集会において年3回行う。
-
- 65 ・ ロータリー情報主催の新入会員講習会や家庭集会を通じて、会員の育成を図る。
-
- 66 ・ 会員相互の忌憚のない意見交換、親睦活動を進めていきます。
-
- 67 ・ 委員会ごとにディスカッションする機会が少ないのでそれを考えてもいいのではないかと、例会に限らず委員会ごとに集まって交流と研鑽をする機会を作っていくべき。
-
- 68 ・ ②でも書きました通り新入会員の継続的拡大による活性化と新入会員に対するオリエンテーションによる個々の質の向上によるクラブ活性化を中心に活動課外活動を通して、先輩会員からの指導等や例会内での卓話をゲストスピーカーに頼らず、極力担当者自ら行う体制の確立がされているのも大きな会員育成に繋がっていると思われます。
-
- 69 ・ イ) 人的資源 会員育成と 奉仕とゆう大きな表看板に会員一同が進んで行くことではないでしょうか、どうしたら一同に一心に成れるかと思えます。プラス、マイナス、損、得、では無く他人、人、人間、世界的人類の為に奉仕が出来るか、末長く(持続可能)奉仕が出来る心の余裕、お金の余裕、自分の為では無く人の為に奉仕出来る事に感謝する、奉仕をさしてもらった事に感謝する。人的資源、会員育成など上段の意見では無く、限りなく他人に奉仕が出来るか、他人の為に正しい精神と正しい姿勢、正しい資金、で奉仕活動を行う。
-
- 70 ・ 強化に関連した会員育成のプログラムとしては
1-入会3年未満グループ
2-入会3年から8年目ぐらい中堅会員を対象にした勉強会を開催します。
-
- 71 ・ 会員の人的能力の情報の収集と会員手帳への記載。
-
- 72 ・ 今年度は、地区の委員会に4名出向しています。
「ポリオ・プラス委員」、「RYLA委員」、「年次寄付委員」、「職業奉仕委員」
-
- 73 ・ 1) クラブ独自の教育もあるが他クラブの見学・勉強も必要かもしれません。例として最低一度は他クラブへメイクアップを。
-
- 74 ・ 入会3年以内の会員を対象にオリエンテーションを行い、早くロータリーを知っていただくようにしている。
-
- 75 ・ 1. 会員の勧誘と退会防止に関する包括的な計画を立て、実施する。
本年度は会員増強特別委員会を設置し、会員増強の目標設定と増強具体策を決定し実施する。
2. 会員の継続的教育の機会を提供し、新会員のためのオリエンテーションを定期的実施する。
-
- 76 ・ 1) 増強委員会でR Iの推奨するFive・For・One・Planによる組織編制表を決定し立ち上げた。7組で古参会員、新人、パスト会長、役員、理事の組み合わせで1名の推薦を必達する。
2) 前述のパスト会長による年間卓話の実施。
3) A・Bブロックに分けて、懇親と研鑽の会議を年3回実施。
4) 綱領、定款に関する勉強会及び手続き要覧の解説例会。
5) 記念事業に関連して、財団寄付のベネファクター3名、ポールハリスフェロー5名、の必達。
6) 地域内活動の強化(社会福祉関連の行政と共同して催事。中日新聞等への積極的なPR活動)

④ 組織運営(組織運営の効率化)での持続可能な前進のための取り組みに

1. 本年度よりクラブリーダーシッププランを取り入れ、委員会活動を活発にし、個人の意見を尊重し全員参加の委員会を組み入れました。
2.
 1. 会員増強純増2名を目指す。
 2. クラブ広報委員会を中心として新聞・ホームページ・会報を通じて社会に情報を発信する。
 3. 地元社会では、新世代のための科学体験教室を継続させる。
 4. WCS活動ミャンマー教育支援プログラムの継続をする。図書館や井戸の建設・書籍・衣類などを現地に会員が訪問し直接寄贈している。本年は11年目となる。
3. 現在、当クラブの組織は小委員会が多く、自分の委員会名すら忘れてしまうメンバーもあり、会員数減少に伴い毎年配属に苦労している状態が続いています。
親睦活動委員会と比較して担当事業の格差が激しく、殆ど活動をしない委員会もあります。現在、次年度に向けて組織の簡略化を目指し、有意義な真の委員会活動が出来るよう努力したいと思います。
4. 当クラブは、CLPの権化のようなパストガバナーがいますが、まだ会員全員にはその思想が行きわたってはいないと思います。(私を含めて)
5.
 1. 本年度からCLP委員会を特別委員会として設置し、地区内クラブの実態調査をした上、当クラブの地域性規模を考慮し望ましい形を年度末までに報告する。
 2. 例会運営関連の3小委員会を合体一元化して効率的、効果的な組織とした(本年度より)
 3. 費用のかからない会合を心がけ参加しやすくした。
6. 組織については、発足以来変わっていません。
クラブにおいても話題にもものぼりませんが、このままメンバーが減少し続けるなら魅力あるロータリーにする為にも、かつ新入会員の希望の持てる組織運営の変更について、取り組む必要はあります。
7.
 - ① 2年ほど前から地区クラブ協議会でCLPについて話題になってはいるが当クラブでは話し合いはしていない。
 - ② 本年度はクラブ奉仕委員会の小委員長会議(11)を開きたい。
 - ③ 1月のクラブ奉仕月間で地区クラブ奉仕委員長にCLPについて卓話をお願いしたい。
(1月20日か27日のいずれかの日で)
8. 大きく変容しつつある中で原点に帰ってロータリー精神を学び、地域社会にロータリーの存在感をより一層アピールし高めていく。
増強にはクラブ全員で取り組んでいく。(9月に1人入会予定)
 - ・ 知多市ジュニアコンサートの活動と援助(永年にわたり支援している)。
 - ・ 知多市産業まつりに協賛。
 - ・ 知多市やまもも授産所に援助。
 - ・ 財団・米山への寄付協力は会員数に見合った地区平均まで努力したい。我がクラブは少人数であります。委員会活動は大変苦勞しています。会員一人ひとり助け合って効率の良いクラブ運営を心がける。
本年度は分区大会(I.M)のホストクラブになっております。会員全員協力してクラブの活力にして良い年度にしたい。地区よりのご指導も宜しくお願いします。
9. 再来年にクラブは50周年を迎えるにあたり、そこでは効果的なクラブ要素に取り組む長期目標が立案されます。
本年度は50周年の準備と内部充実を図る目的でクラブ運営の簡素化に取り組みました。
副会長が会員情報委員長を兼務し、会員育成のプログラムの充実を図ります。
会員情報委員会の小委員会を統廃合し、運営効率の向上を図りました。
職業分類・会員増強・会員選考の各委員会を統合し、会員増強委員会としました。

ついて(CLPについて経緯もお記し願います) (1)

広報委員会・雑誌委員会を統合し、広報委員会にしました。
プログラム委員会を独立した委員会に組織変更し、プログラム委員長を理事メンバーに加え、例会の充実を図ります。

- 10 ・退会防止、会員増強に努める
RC定款・細則及び内規の改正に伴うクラブ運営体制を見直し、より効率的なクラブ運営を行なう。
「CLP」に移行できるよう組織体制を整えるとともに、地区の方針に沿って「CLP」を導入できるよう検討する。
- ・直今、実験中です。
- 11 ・実施事項は
① ロータリー月間テーマによる担当委員長の卓話の実施
② 定款の読み合わせ
③ 100万ドルのディナーを行なった
CLPに関しては、特に実施されなかった。
- 12 ・ 1. CLP導入を視野に入れ、従来の委員会編成をCLP移行型とした。
2. 「ロータリーを考える月間」を活用し、「クラブの魅力とCLP」をテーマにフォーラムを開催し、会員のコンセンサス構築へ向けた第一歩を踏み出した。
クラブ創立20周年を契機に、対内事業担当委員会にて中長期ビジョンの作成と次年度からのCLP実施に向けて検討していく計画である。
- 13 ・ 一昨年度よりクラブ・リーダーシップ・プラン実施に向け、定款・細則等を変更しました。そして昨年度よりCLPを実施し、委員会組織をクラブの規模に対応するように編成しました。その結果、会員に無理のない委員会構成や活動を行うことができました。それに伴い効率的な組織運営が出来、今までと異なる角度から例会を企画・運営したことで、クラブの活性化に繋がった。
そして、今年度も昨年度の委員会組織等に改良を加えながら継承しており、次年度にもつなげていけるよう、今年度のクラブ運営の中でさらに切磋琢磨し、組織運営の効率化を目指していく予定である。
- 14 ・ 「年次計画書の充実」をはかり、組織の維持をはかっている。
第1は、会員維持増強については、②のとおり実施。さらに、新世代(青少年)の理解活動として、今年度第18回「青少年の主張発表会」、第15回「豊田東RC杯軟式少年野球大会の主催」、第24回「交換学生の集い」などの継続事業を実施。また継続事業は、時の環境に適応・調和しているか常に考慮しつつ事業計画を行なっている。加えて、③のとおり、ロータリー財団への寄金は「毎年100ドル」をスローガンに「米山記念奨学会」とともに進めている。
- 15 ・ 当クラブでは、2年前よりCLPを採用し、効率化を図りました。
- 16 ・ 当ロータリーは100名強の会員を要し、地区に対応する委員会も相当数あり特にCLPを導入することは考えていません。
- 17 ・ CLPを、昨年度の幹事のときに導入し、本年度2年目を迎えます。昨年の反省から、委員会構成と、人員配分で、若干の修正を加え、さらなる進化したCLPにしていきたいと思えます。
CLPを導入したことによる、効率化という点では、
①委員会を見直したことで、各委員会の活動が以前より平準化されました。
②委員会数を見直したことで、少人数の委員会がなくなり、1つのミッションに対して複数の人員で、取り組めるようになりました。
③全ての委員会の委員長が、理事会メンバーとなり、理事会とより直結した運営が可能となりました。

④ 組織運営(組織運営の効率化)での持続可能な前進のための取り組みに

- 18・ 1、当クラブは、2003年度に委員会の削減を行い、それまで20あった委員会を15に減らした。
その結果、相当程度、クラブの組織がすっきりし、活動がしやすくなった。
2、また、「チャレンジ100」の実践によるクラブの活性化が顕著であった。
3、CLPについては、前年度にCLP委員会を設けて検討したが、当クラブは現状で不都合を感じておらず、地区や他のクラブにおけるCLPの進行状況を見つつ、必要性を感じたときに再検討すべきであるとの意見であった。
- 19・ 当クラブのクラブ奉仕委員会は、所属委員会のとりまとめをする委員会であると同時にクラブ内部の充実をはかり、より高いクラブの品性を求め、奉仕活動を活発にし、楽しいクラブ作りを指す。
本年度は、CLP導入初年度であります。委員会全員で円滑な運営をはかっていきます。
CLP前のクラブ組織表(2007～2008年度)とCLP後のクラブ組織表(2008～2009年度)を添付ファイルにて送付します。
- 20・ 当クラブの場合、2005年の設立当初より、組織運営の効率化という点を重視してきました。比較的若い層を中心としたクラブであるため会費を抑える必要があり、そのため事務局を置く余裕はなく、諸々の事務も幹事を中心として会員自身で処理していかなければなりません。幸いなことに、現代では、インターネットとパソコンという情報伝達と事務処理のために非常に有益な道具がありますので、これを最大限活用して、コストと手間の掛からない組織運営を心掛けてきています。CLPに関しては、クラブの活性化・効率化のために組織運営の再構築を行うという側面が強いものと思われませんが、いまだ最初の構築の最中である当クラブではこれの採用を検討するという段階にまで至っておりません。しかし、地域社会等に対する奉仕プロジェクトの立案・実施や、長期的なビジョン・計画の策定・実現といった部分に関しては、まだまだ当クラブは不十分でありますので、CLPにおいて提示されている種々の重点項目を取り入れて、クラブ運営の更なる活性化を図っていきたくと考えております。
- 21・ 当クラブも会員減少が続き、会員拡大が目下の急務です。新会員の勧誘においても会費の額が入会に際しての大きな障害となっております。
R. C. における分担金(地区、分区、R1等)について今一度、抜本的に見直す時がきていると考えます。当クラブにおいては、年会費が諸々を含めると40万程になり、さらに入会金が7万円かかり、この金額を提示すると難色を示される方が多く見られます。従って当クラブでは年会費をいかに抑えることができるのか、様々な角度から、只今検討しているところです。
CLPで提唱された委員会以外は、出きるだけ簡略化して、組織の簡素化が必要だと考えます。
- 22・ クラブ会員の減少及び高齢化に伴い、クラブの規模に合った委員会活動を展開する。
- 23・ 行っていない。
- 24・ 事務局機能を、歴年にわたって強化できた結果、クラブ会報委員会など過度な活動が必要な委員会を減らすことができ、むしろ事務局に頼らない、自主的な活動を維持することが命題となる。
75名のクラブ会員は、クラブ運営にとって運営しやすい人数で、個々の委員会活動で支障が出るとは考えにくいですが、必要な場合、複数の委員会が共通して事業を行う体制をめざしたい。
また、現在地区への出向者が決して多いほうではないので、もう少し出向者が増えても、安定した運営ができるようにしたい。
CLPとして、次年度以降、会員増強と職業分類、広報と資料と雑誌、出席とプログラム、社会奉仕と環境保全の各委員会、それ以外にも可能性を追求したい。
- 25・ 会員数が80名余りに減少した以前に比べて、93名ほどに増員され、委員会活動など組織運営も活性化されている。また、財源不足も解消され年次計画通りに達成されると確信している。
経験豊富な会員と新しい会員との組織・委員会メンバーのバランスも良くなり、現時点においては持続可能なクラブ運営ができているが、将来のことを考えてCLPについては検討中である。

ついて(CLPについて経緯もお記し願います) (2)

- 26 ・ 当クラブの年次方針は「一步一步」であり、着実な前進こそクラブの長期目標を達成していく近道と考えております。基本的に重要なことは会員増強であり、その為には一会員一名ずつの新入会員候補者を紹介して頂くべく働きかけていきます。それらの基礎として会員間の親睦活動が極めて重要であり、その為の親睦家族会、親睦家族旅行を支援いたします。また、地域社会への奉仕に勤めます。具体的には小中学生を対象とした作文コンクールを支援していきます。更に書と音楽のコラボレーションである「書遊」を小学生を対象として実施していきます。
- 27 ・ 特にありません。
- 28 ・ まず、当クラブのような少人数クラブでは、会員増強に力を入れ会員を維持していかなければならない。その為にCLPを充実させ会員のすみずみにまで協力を願う。
それにおいては妥当な指導者を育成しコミュニケーションをとりながら組織を指導・継続してゆくよう考えています。
- 29 ・ 1)すでに各委員会の組織改組・統合をしており、これ以上の組織運営の効率化を見直す予定は持っていない。
2)現職の多忙な会員が多く、クラブの委員会活動が負担となり、組織運営に支障をきたさないようにするため、出来る限り、例会の時間の前後を利用して委員会の協議の場をもつようにし、Eメールなども利用し、効率化を図る。
- 30 ・ 1. メール、携帯メールを利用して会員への連絡をする。
2. ホームページを活用して効率化をはかる。
CLPについて：
当クラブは会員数が117名(2008年7月現在)で比較的規模が大きいため、前年度理事会ではあまり活発に議論されなかったと聞いています。
- 31 ・ 当クラブでは3年前よりCLPに取り組んでいます。
しかし、CLPの理念と従来のロータリーの理念との関連性がわかりにくく委員会の統廃合以下の効率化は実現できていないように思われます。
- 32 ・ 10周年を迎える当クラブは、会員数の拡大にあわせて、定款・細則・内規を見直し組織変更を行っています。委員会の名称は変更せず役割分担を理事会で決定し各委員会に振り割けています。
- 33 ・ 現在運営に不安はありませんが、より安定的な運営の為、質的維持を伴う会員増強を心がけます。
収支の各項目を見直します。
CLPについては必要に応じて検討してまいります。
- 34 ・ 2008～09年度、地区方針“持続可能な前進”の基本理念、哲学の実践。
サブフレーズ：ロータリーに心を、ロータリーを心に、ロータリーの心をロータリーの理念を原点とし会員各人のヒューマニティー尊重。
近未来。世界繁栄、発展の主役である子ども、青少年のためのロータリー支援事業に鑑み継続行事、区小中学校連合音楽界、千種高等学校インターアクトクラブの活動に際しての継続的支援。名古屋名城ローターアクトクラブの活動に際して継続的支援。RYLAセミナーへの参加者派遣。韓国、ソウルR. C. との友好親善。友愛の精神、奉仕の活動にて真なるロータリーの理解展開。
- 35 ・ 昨年はCLP委員会を立ち上げ検討会議を開催した。
当クラブは、会員数減少に伴い、組織の見直しを行ない、減少した会員数でもサービスの質をおとさないで、クラブ運営が可能となるように委員会の統合と行うべき役割のマニュアル化を進めている。

④ 組織運営(組織運営の効率化)での持続可能な前進のための取り組みに

- 36 ・ 当クラブでは先に記しました後に、2007～2008当初にCLPを検討すべく、パスト会長を委員長として幹事経験者3名及び当該年度の会長、幹事を含めてCLP検討委員会を設置し、組織のグループ化、CLPの導入時期等の検討に入りました。
- ・組織のグループ化
- 小人数クラブでは会員数に比べ委員会数が多く、一人しかいない委員会、あるいは一人がいくつもの委員会を兼務しなければならない状況が見受けられます。
- そこで、委員会をグループ化することにより多くの会員による委員会運営が可能となります。
- ・各委員会を次の4グループにわけ、グループリーダーを決める。
- | | |
|-----------------------|-----|
| 1 奉仕グループ(リーダー・会長) | 15名 |
| 2 財団グループ(リーダー・副会長) | 5名 |
| 3 クラブ管理グループ(リーダー・幹事) | 21名 |
| 4 増強グループ(リーダー・会長エレクト) | 9名 |
- 尚、地区委員会組織にあわせてサブリーダーとして各委員長を選任
- ・CLP導入時期について
- 2008～2009年度に導入決定
-
- 37 ・ 国際ロータリーや地区方針により時々新委員会が組織されるが、クラブに根ざさない委員会についてはクラブの活性化の為に廃止すべきであり、新たな情報の為に渉外担当者を置き情報連絡だけは伝達できるようにして、あくまでもクラブは職業奉仕を中心に活動すべきでボランティア団体になるべきではないと思う。CLPについては、当クラブでは今後の課題として取り組むものであり、会員の意見を大切にしていきたい。
-
- 38 ・ 当クラブにおいては本年度より取り入れ常任委員会として、クラブ運営委員会、会員組織会、クラブ広報委員会、奉仕委員会、ロータリー基金委員会を設置しその下に従来の小委員会を設けました。
- 活動については各常任委員会が責任を持って行動し委員全員が参加し会議、奉仕活動等一致協力できるような組織を編成しました。
-
- 39 ・ 地球環境の悪化が危惧されている今こそCO₂削減に会員一人一人が取り組むことを伝えていく。環境保全活動、乙川上流水質検査の助成(形埜小学校)、ゲンジボタル飼育活動の助成(河合中学校) CLPについては委員会統合等スリム化に挑戦している。
-
- 40 ・ CLPにつきましては、本年度よりスタートさせましたが、対外的には地区内に於いて未だ組織図が完成されておらず、当クラブでは副委員長と委員長を同等にするなどして会員の皆様には複雑な思いをさせています。
- 組織運営の効率化は良いのですが、委員会を減少しすぎる弊害もおきています。
-
- 41 ・ 今年度はクラブ効率化に向けて、ニコボックス委員会と親睦委員会を合体させたことが挙げられます。当クラブでは、例会時、ニコボックス委員会のニコボックス受付と親睦活動委員会のビジター受付は隣同士である上、ニコボックスへの協力依頼は、会員の親睦が大変重要となるため、この2委員会の統合は大変合理的だと考えます。
- また、当クラブにおいて、新入会員は親睦活動委員会に配属される場合が多く、会員の名前と顔を覚える機会が多い。この2委員会の統合は会員融和に最適であろうと思います。
- その他、前年度において、当クラブではプログラム委員会と出席・会報・雑誌委員会を例会運営委員会の小委員会とし効率化を図ってまいりましたが、今年度はさらなる効率化を求め、プログラム委員会と出席・会報・雑誌委員会を完全に統合し「例会運営委員会」と致しました。
-
- 42 ・ 当クラブは小人数クラブゆえ重要な委員会といえども委員長・副委員長・委員の計3名での委員会です。合理化、効率化を進めています。
- 委員会を合併、細分化せず各委員会の委員の配分を図り協力するようになっています。
- CLPは四大奉仕部門とあわせてロータリーの哲学的な礎石であり続けると思うので委員会構成を以前のまま残して実行していくように考えています。

ついて(CLPについて経緯もお記し願います) (3)

- 43・ 昨年度は初めてCLP導入であったため、主に組織作りが主体であった。
今年度はCLPを更に学び理解した上で進展させるべく、長期的なビジョンに基づいた奉仕活動を実施計画。
具体的には社会奉仕委員会・国際奉仕委員会・ロータリー財団委員会を3年委員会として3年の期間
で、企画、実行し是正を行いながら引継ぎをしていく予定です。
ロータリー財団委員会を3年委員会とした理由は、マッチンググラントや地区補助金の申請等では、
他の2委員会とはよく連絡をとって準備するためである。
- 44・ 設問2でクラブ活性化の方策について記したとおりです。
- 45・ CLP実施、従来と比べて委員会数を半分にし、所属委員は一人一役とし重複所属をやめた。
各委員会で事業計画を推進するにあたりメンバー全員で考え、意見交換をすることにより全員参加のク
ラブ運営が生まれることを期待している。
特に親睦活動は従来若手中心のメンバー構成であったが本年度は受付・ニコボックスを全会員が分担
して担当、クラブ内の一体感の増進を図る目的で実施する。
- 46・ 会員数がすくないためにすこし時間が必要です。
- 47・ 当クラブもCLPにもとづき組織の簡素化をはかり進めていく所存ですが、クラブの会員の減少をくい
とめ、会員を増加させるべき活動に全力を注いでいる状況でまだ十分に取り組んでいません。
- 48・ CLPについて、会員がまだ良く理解していないので、現在勉強中です。
- 49・ ガバナー方針で環境の悪化防止の重要性を語られています。
当クラブでは環境保全委員会が中心となり特に今年予算を投入して街路改善活動、環境美化運動に力
点を置いて、ロータリアンが前進し、生き残るために持続可能な前進をしまります。
- 50・ 1、100名前後の会員を擁する当クラブにおいては、なるべく多くの委員会を設け会員にクラブ活動
を担ってもらべく細分化をはかってきた。
2、しかしながらCLPによってクラブ活動の効率化も大切なことだと自覚している。
3、クラブ奉仕委員長において、クラブアッサンブリやクラブ奉仕委員会の会合において、RI又は地
区のCLPへの取り組みについてアピールしている。
4、複数の委員会を兼務をしていただく方向性でCLP的組織を形成していきたいと考えている。
- 51・ 8月に検討委員会を発足させ、検討内容を提案。四大奉仕の組織活動は維持し、効果的な委員会、ク
ラブ運営奉仕活動の理解と実践を考えています。
- 52・ 例会のあり方をアンケートし、SAA会場運営委員会とクラブ奉仕関連委員会と協議する。
- 53・ 1) 各委員会カウンセラーとして会長・幹事経験者を配置し各委員会の活性化につながる組織としている。
2) 当該会長からの諮問にもとづいて毎期「長期ビジョン協議会(座長は元会長経験者)」に組織運営
に対する問題点を答申していただく制度と継続している。
前期のテーマは「会員、増強について」でした。
- 54・ クラブ規約及び細則の見直しを昨年度実施しそれにもとづいたクラブ運営をしていく。
- 55・ 当クラブは現在71名の会員を維持しております。現在の委員会組織は会員が適度な頻度で委員長を務
め、RCに対して理解を深め責務をはたすと言う点では特に「持続可能な前進」を満たすものと考え、
組織の見直し、CLPに関しては現在検討しておりません。

④ 組織運営(組織運営の効率化)での持続可能な前進のための取り組みに

- 56 ・ 当クラブはCLPを実施してクラブの強化、活性化をしようとしている。当クラブが全員参加で努力しようとしています。
今迄のクラブ奉仕委員会は委員長(会長エレクト)、副委員長(副幹事)、出席、職業分類、会報、親睦活動、雑誌、会員選考、会員増強、プログラム、広報以上の12委員会の委員長(副委員長の代理出席可)の14名で構成されていたが、当クラブのCLP実施による改善案では、
1、会員増強委員会は理事会に直属し、委員長は理事(既に承認済みで実施している)
2、親睦活動委員会も理事会に直属、委員長は理事。家族委員会的機能も負荷するなどしてい。
- 57 ・ 前年度より実施し今年度も継続しております。
- 58 ・ 本年度は40周年事業を計画しております。
- 59 ・ 徒らに組織運営の効率化を求めることについては是非はありますが、当クラブの組織上の問題点については特段ありません。
しかしながら、新しいテーマ、カテゴリーが出来てきた場合には対応する組織について一考を要すると思われれます。
CLPについては過年、研究討議をされておりますが、現況では積極的に取り入れる形態とはなっておりません。
- 60 ・ 1) CLPの採用: 会長エレクトの下、職業分類、会員増強、会員選考、R情報一つになって会員増強に当たる。
2) 新たにIT委員会を設け、リアルタイムで全会員にR情報を流します。
- 61 ・ 1) 今年度当クラブの会長方針の中の一つとして品格ある、教養あふれるロータリアンを目指しての実践。大人としての最低のことができない。
例えば、例会時のお互いの挨拶。相手を思いやる心。ありがとうという感謝の心。
2) 四つのテストの実践を行うことによって育成の強化。
3) 社会奉仕活動(ゴミ拾い。交通安全週間。青少年の指導)等が行われるときには、ご婦人の参加も呼びかけ参画することによって夫婦の共有の課題と喜びも深まると考えています。
- 62 ・ 設問②と③で記載した活動を継続して行う。
今後もあるべき委員会の編成につき修正・見直しを行う。委員会の活性化のためにも所属する委員が手分けして地区委員会などへ出席し、その情報を責任をもって委員会に持ち帰り、またその情報を担当した委員から例会において報告させ、各自のクラブに対する帰属意識を高め、又クラブ全員に情報が共有させるように努める。
クラブの特色を会員に理解していただくために昨年度は在籍年数別の歓談会を実施し、その浸透を図った。今年度は新入会員育成プログラムおよびサポート体制の要領を作成する予定である。
当クラブも細則も国際ロータリーの規約などの改正に伴いアップツアードする必要があり、その作業を行い、各委員との規約と上の理解を得ていただくことを考えている。
- 63 ・ ① 当クラブに対して会員の持っている考え(問題点)を集約し、還元し共通の問題意識を持った小グループ討議をした。(今後も随時実施)
② 共通の問題点を組織的に検討するため、CLP検討委員会を設置し問題点ごとにまとまりしだい、理事会に答申していく。
設問事項
・ CLPで呼応できる常任委員会と当クラブの委員会構成。
・ 当クラブの定款の検討。内規と細則との係わりについて。
・ 会員増強と維持についての効果的な取り組み。
・ ロータリークラブの「公共イメージ」をアップするためには。
・ 顔の見える奉仕活動を展開するためには。

ついて(CLPについて経緯もお記し願います) (4)

- ③ 前年度までCLPについては、その必要性は認識しつつも管理運営面では大きな問題がなかったために組織的な検討はしてこなかったが、ここ数年会員の減少等が問題化し根本的な対策の必要性が出てきた。

そこで、本年度CLP検討委員会を設置した。

- 64 ・ 前年度より継続してCLP検討委員会を設置し、会議を行っている。
- 65 ・ CLP立ち上げ委員会を設置したところです。今年度中には組織改革出来ると思います。
- 66 ・ 委員会数を減らすことにより、増えた役割を委員会メンバーに割り振ることによりロータリーの活動についての知識と自覚を高めることができていると感じる。委員会を開催し、実際に委員会活動をする事がロータリーの活性化に繋がるのではないかと思います。
- 67 ・ 組織運営につきましては、単年度の中で年度の会長幹事の想いを年次計画書内に織り込む中で、各委員長たちが会長方針に従い例会や事業を企画立案し理事会内にて協議決定し実施しており、現状の中での組織運営の問題は見当たらないように思われます。
CLPについては本年度理事会にて検討し、次年度以降にて具体化する動きとなる予定です。
- 68 ・ イ) 組織運営の効率化はRC活動錠、主題では無いと考えます。
組織上会員が納得が得られる奉仕活動が出来るかである、良い奉仕活動が末長くロータリー組織の強化では無いでしょうか、CLPの解釈ですが、素直にクラブのリーダーのプラン考えます。CLPは、本部より明確な方針が無いと解釈が各クラブにより大きく違いが出来ると考えます、当クラブは少しでも多く、正しく、他人の為に奉仕活動に努力はします、実行あるのみ。
- 69 ・ 昨年度決定事項よりの継続事項として
1) 例会のあり方の工夫… 時には卓話に目玉となるような方をお招きし時間配分も考えて有意義な例会となるようにする。
2) 各委員会会議・会合の開催… 各委員会で会議会合を実施するように勧告する。開催日時の決定と開催後の報告の2点を会長・幹事に連絡する。
3) クラブアssenブリの議事録は会員全員に配付し、各委員長がどのような考えを持っているかということが全員に伝わるようにする。
CLPはクラブ基盤を見直すこと、年に一度は自クラブのことを全員で考えてみたい。
- 70 ・ 特にありません。
- 71 ・ 当クラブ会員数 ・ 2年66名から減少し始め、・ 7年48名となりました。それに合わせ ・ 4年22委員会から ・ 7年11委員会へと委員会の統廃合をしてきました。
8年は、四大奉仕委員長のもと、各委員会は委員会の枠を越え協力する体制となっています。
- 72 ・ 2004年11月、国際ロータリー理事会承認の「クラブ・リーダーシップ・プラン」を当クラブは2006年6月に定款細則を変更し7月から採用する。
その採用目的は、効果的なクラブ管理の枠組みを提供することにより、クラブレベルでロータリーの強化を図る。
1. 長期的なクラブ活動計画の策定(クラブの特性を生かしたクラブ活動・文化を構築する。)
2. 委員会構成の簡素化と順応性(委員会構成は奉仕に取り組むために拡張することができます。)
3. 全てのクラブ会員が参加(クラブが独自の特性つまりアイデンティティーを築き上げる。)
ロータリー活動のマンネリ化による悪習の改革。

④ 組織運営(組織運営の効率化)での持続可能な前進のための取り組みに

- 73 ・ 1) クラブ奉仕委員会、会長OB等8名で第一回の会合を設ける。
現状認識、会員増強等について今後2ヶ月に一度会合を設け次年度に向けて下積みを行います。
- 74 ・ 会員減少により各委員会が2名となるところが多いため、各ブロックを5つつにわけ、1ブロックが10名前後になるよう委員会の連絡が密になった。
- 75 ・ 2004年11月、国際ロータリー・理事会承認した「クラブ・リーダーシップ・プラン」(CLP)を名古屋清須ロータリー・クラブは、2007年6月定款細則等を変更し2007年7月から採用しました。
※クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)の採用目的は、効果的なクラブ管理の枠組みを提供することにより、クラブのレベルでロータリーの強化を図る。
1. 長期的なクラブ活動計画の策定(クラブの特性を生かしたクラブ活動・文化を構築する。)
2. 委員会構成の簡素化と順応性(委員会構成は奉仕に取り組むために拡張することができます。)
3. 全てのクラブ会員が参加(クラブが独自の特性(アイデンティティ)を築き上げる。)
*ロータリー活動のマンネリ化による悪習の改革等
- 76 ・ ① 事業計画段階で経費の見直しを行った。社会奉仕への無意味な助成金削除
② 3年前51名の会員から現在40名と減少としたので何より今年度は増強が必要であるので、Five・For・One・Planによる増強委員会を立ち上げた。
③ 委員会組織を一部併合しスリム化をはかり、主たる事項の決定は15人による理事会中心の方式に重点を移した。臨時の理事会の開催による即時決定事項を鮮明にするため。
④ CLPについては、重要性を認識しているが、多くの会員が興味と責任を分かち合うのも重要であるとの考えで、順次段階的に実施したいので、③の理事会運営を強化していき意思の統一を図る。
⑤ 当クラブは定款等は数年改正していなのでは標準クラブ定款との矛盾点があり、25周年事業の終了後の3月頃から、エレクト、次期幹事、現幹事、ロータリー情報担当理事で、全面改正案を作成する。
⑥ 今年度は25周年事業(10/5:小池百合子衆議院議員の後援会、12/13:記念式典、2/18:障害者支援活動)とIM担当クラブとして、上気も上がっておりますが、全く多忙な1年になりそうです。毎例会終了後、25周年実行委員会あるいはIM準備委員会、会員増強委員会の何れかを開催しています。

ついて(CLPについて経緯もお記し願います) (5)

2008～2009年度クラブ奉仕委員会

- ◎ 藤原 研一(名古屋名北)
- 井上 穂(豊橋ゴールデン)
- 水野 聖仁(小牧)
- 多田 通夫(名古屋城北)
- 松本 順子(半田)
- 天野 正明(名古屋瑞穂)
- 松井 勇(豊田)
- 重富 亮(名古屋守山)
- 糸井 学(名古屋みなと)